

## 選択的評価事項に係る目的

### 選択的評価事項 A 「研究活動の状況」に係る目的

高等専門学校は設置当初から実践的な技術者の育成を目標に掲げてきた。一方、2004年4月に独立行政法人化され、教育と研究が一体化された「教育研究」が本務の一つに挙げられた。高等専門学校の教育研究が実践的な技術者の育成に資するものとなるためには、独立行政法人国立高等専門学校機構法（以下「機構法」という。）に示されているように「外部との共同研究や地域産業界との連携」を進め、より有用で実践的な研究成果をあげることが必要である。

本校は歴史ある港町の木更津に位置しているが、産業は漁業と商業が中心の町であり、木更津に工業は根付いていない。袖ヶ浦以北の沿岸部には化学プラント工場、電力会社の発電所、千葉の製鉄所及び、木更津の南には君津の製鉄所等の大企業があるが、自動車産業のように中小企業を周辺に抱える産業形態ではない。数少ない大企業と零細企業という構造であり、地域の活力は低下の一途をたどっている。こうした状況下で本校の教育研究力を地域産業に還元し、本校の社会的な存在意義を高めていくためには以下の目標のもとに教育研究を実践して行くことが求められる。

(1) 地域社会の要求を把握し、ニーズとシーズを見極めた研究を遂行するために、地域社会とのコミュニケーションを深める。

地域の活性化のためには中小・零細企業の活性化が不可欠である。大企業と零細企業という木更津の産業構図は、見方を変えれば新産業を起業する余地を残した地域であるとも言える。高専の役割は、人材の育成を含め、地域企業の基礎技術力向上と、新技術の紹介、また何より地域企業同士の情報交換の場を提供することで新規事業を地域に促すことにある。

(2) 外部機関との共同研究・受託研究等を推進する。

地域企業を含めた外部機関との共同研究・受託研究等を推進することで、本校の教育研究成果を実際に役立てることができ、地域協力を実りあるものとすることになる。

外部機関との共同研究は、準学士課程の卒業研究や専攻科課程の特別研究に組み込まれることで、教育活動に生かされることが多く、研究を教育に生かす上でも重要である。

## 選択的評価事項 B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

2004 年 4 月から施行された機構法には、「機構以外から委託を受け、又はこれと共同して行う研究を実施すること、及びその他の機構以外の者との連携により教育研究活動を行うこと」が規定されている。

「正規課程の学生以外に対する教育サービス」は、社会貢献の一環として、また理数教育の基礎レベル向上を促す事業として、今後重要になると考えられる。

本校ではこの機構法施行以前から公開講座や出前授業を実施していたが、機構法により本務の一つとして位置づけられた。そこで「正規課程の学生以外に対する教育サービス」を以下に示す目的のもとに実施する。

(1) 一般社会人の生涯教育をサポートする目的で、公開講座・オープンセミナー・テレワークセミナーを実施する。

原則として一般社会人を対象とした講座であり、本校教員の専門知識を生かした内容の講義を実施する。

(2) 地域小中学生の学習意欲の向上を目的として、公開講座・オープンセミナー・テレワークセミナー・出前授業を実施する。

小中学生を対象とした講座で、本校の教員の持つ教育資産を活用して児童・生徒が小中学校の平常授業で体験できない内容の講座を中心に実施する。

## 選択的評価事項A 研究活動の状況

### (1) 観点ごとの分析

観点1 - : 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観念に係る状況)

本校では、教育研究力を地域産業に還元し本校の社会的な存在意義を高めていくために、地域社会とのコミュニケーションを深め地域社会の要求を把握し、ニーズとシーズを見極めた研究を遂行するとともに、外部機関との共同研究を推進している。

本校設立当初より、地域企業との共同研究や受託研究は活発に行われていたが、2001年3月に木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンター(以下「テクノセンター」という。)を設立し、その運営に当たってテクノセンター運営委員会を組織することで、本校と地域社会・企業等との結びつきの一層の推進を図った(資料A-1--1)、(資料A-1--2)。

テクノセンターの主な事業は、共同研究や受託研究の受入れ、技術相談の実施、奨学寄附金の受入れ、生涯学習支援等を目的とした公開講座等の開講、受託試験の受入れである(資料A-1--3)。テクノセンター施設内には技術相談室、多目的会議室の他、3つのラボラトリが整備されている。2006年3月現在、第1ラボラトリには、構造物や試供体等の裁荷試験において発生するAE(アコースティックエミッション)を計測し解析することができるAE解析システムが設置されている。第2ラボラトリには、高周波回路(45MHzから110GHz)のスペクトラム解析や伝達特性等の測定を行うネットワーク解析システムが設置されている。第3ラボラトリには、物体表面から放出される赤外線エネルギーをとらえ、温度分布として画像表示し、有限要素法を用いたシミュレーション解析も可能な非接触温度計測システムが設置されている。(資料A-1--4)。また、2004年度よりは、既存の電子顕微鏡室(資料A-1--5)がテクノセンターによる運営体制となった。

テクノセンターでは、毎年ガイドブック(資料A-1--6)を発行(2005年度発行部数:1000部)し、テクノセンターの目的、業務内容、各教員の研究分野(資料A-1--7)等の広報活動を行っており、それらは同時にウェブサイト(資料A-1--8)、(資料A-1--9)でも公開している。また、半年毎にテクノセンターニュース(各300部発行)を発行し、センターの紹介、研究者の紹介、センターの活動紹介等を行っており(資料A-1--10)、こちらもウェブサイトで公開している。更に、テクノセンター長(1名)、副テクノセンター長(3名)を中心として、各種講演への講師派遣、審議委員会への委員の派遣、交流事業等の参加を積極的に行っており(資料A-1--11)、その他の教員も千葉県内の技術振興の場である東葛テクノプラザ技術相談会に交替で参加している(資料A-1--12)。

また、本校と地域産業界の積極的な情報交換の場を設けるために、テクノセンター設立と同時にテクノ交流会を開催し、地域企業等から講師を招きテクノセンター講演会を定期的で開催してきた(資料A-1--13)。2004年3月には、地域産業界等との連携をより発展させるため、会員制の木更津工業高等専門学校技術振興交流会(以下「技術振興交流会」という。)を発足した(資料A-1--14)。技術振興交流会は、本校の教育研究の充実に協力するとともに、本校並びに会員相互の連携・協力を深めて産業技術の振興を図り、地域社会の発展に寄与することを目的とし、技術及び実務に関する交流会・講演会の開催、産学連携による技術開発の推進、会員及び地域社会の発展に寄与する事業、木更津高専の教育・研究の充実に関すること等を事業として行っている(資料A-1--15)。技術振興交流会は本校とは、別組織となっていて、会長、副会長、監事、理事等の役員のほと

んどを地域企業，商工会議所等から選出し，本校からはテクノセンター長，副テクノセンター長が理事の一員として，庶務課長が幹事の一員として参加している（資料A - 1 - - 16）。

技術振興交流会では，地域のニーズと本校のシーズを組合せた活動を行うために実践的なテーマを設定して，一般会員と本校教員から構成される分科会を設け，設定したテーマのもとに相互交流と会員への情報提供を行っている（資料A - 1 - - 17）。現在，環境管理技術，医療・福祉機器，教材開発，光応用技術，社会基盤のメンテナンス，ロボット・自動化，通信・アンテナ，画像情報，機械・制御系，電子・電気系，情報系，環境・土木系，自動車リサイクル技術，異業種融合（有機材料，複合材料，伝統文化・工芸，エネルギー技術，資源リサイクル技術，水産・農林系基盤技術，生活工学）の14分科会が設置されている。また，年2回のテクノフォーラムを開催し，広範囲のテーマによる講演会を軸として，本校教員の研究内容の紹介，企業の製品展示，会員の技術紹介，施設見学及び技術相談等を実施している（資料A - 1 - - 18）。

## 木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営規程

平成 12 年 11 月 15 日 規則第 8 号

### (趣旨)

第 1 条 木更津工業高等専門学校の組織及び運営に関する規則第 16 条第 1 項に基づき、地域共同テクノセンター（以下「センター」という。）の運営その他必要な事項について定める。

### (目的)

第 2 条 センターは、地域の中小企業を始めとする産業界を対象とした技術相談、共同研究、技術者のリフレッシュ教育を集約的に行い、地域産業の振興・活性化を助長し、地域の経済力向上に資することを目的とする。

### (業務)

第 3 条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 産業界との共同研究及び技術相談等研究交流に関すること。
- (2) 技術セミナー及び技術研修会に関すること。
- (3) 学内共同研究に関すること。
- (4) ものづくり教育の推進に関すること。
- (5) 公開講座に関すること。
- (6) 電子顕微鏡室の運営に関すること。
- (7) その他センターの推進に関する必要な事項。

### (委員会)

第 4 条 センターの管理運営に関する事項を審議するため、地域共同テクノセンター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) センター長 (2) 副センター長 (3) 学科・学系から選出された教員若干名
- (4) 事務部長 (5) その他校長が必要と認めたる者

3 委員会の委員は、校長が委嘱する。

4 第 2 項第 3 号及び第 5 号の委員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

5 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

6 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

7 委員長に事故あるときは、副センター長がその職務を代行する。

### (事務)

第 5 条 センターの事務は、庶務課において処理する。

### (雑則)

第 6 条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、委員会の議を経てセンター長が別に定める。

### 附 則

1 この規程は、平成 12 年 12 月 1 日から施行する。

2 この規程の第 4 条第 2 項第 3 号及び第 5 号の委員の任期は、同条第 4 項の規定にかかわらず、平成 13 年 3 月 31 日までとする。

3 木更津工業高等専門学校技術開発相談室規程（平成 7 年 12 月 14 日規則第 2 号）は、廃止する。

### 附 則

この規程は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

### 附 則

この規程は、平成 14 年 7 月 1 日から施行する。

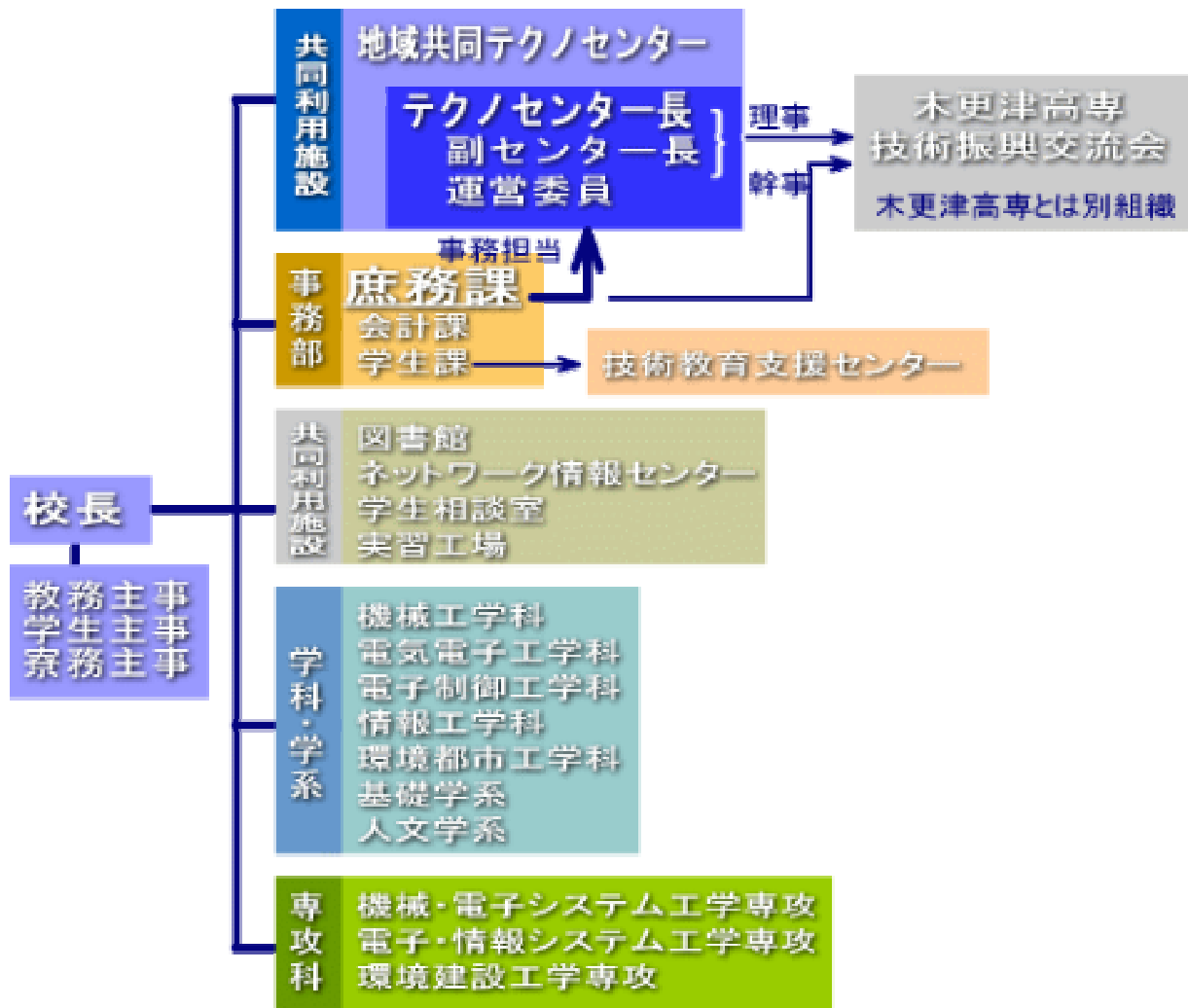
### 附 則

1 この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

2 木更津工業高等専門学校電子顕微鏡室運営規程（平成 13 年規則第 12 号）は廃止する。

（出典：木更津工業高等専門学校広報第 19 号）

地域共同テクノセンター組織図



( 出典 : <http://www.kisarazu.ac.jp/techno/sosiki.htm> ,  
木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンターウェブページより )

地域共同テクノセンターの事業内容



**地域共同テクノセンターは**  
 地域の人々と共同研究・受託研究・技術相談・生涯学習・受託試験などを集約的に  
 行い、地域の発展向上に努めるための拠点です。


**当センターには**  
 共同研究や受託研究を行うための研究室があります。  
 技術相談を行うための相談室があります。  
 公開講座やリフレッシュ教育等の生涯学習を行う多目的会議室があります。

事業内容


**共同研究**

 企業の方々と、本校研究者と共同で研究を行います。


**受託研究**

 企業の方々からの依頼によって、本校が各種研究を行います。


**技術相談** 相談は無料です

 本校では、多くの教員が多分野にわたり教育と研究に携わっていますので、それぞれの分野で相談に応じたり、情報の提供などを行います。

**寄附金** 寄附に関しては、税法上の優遇措置が受けられます

 本校には、学術研究の奨励や教育の振興を目的に、広く寄附金を受け入れています。

**生涯学習**

 技術セミナー及び技術研究会等各種リフレッシュ教育を行います。  
 専門的知識を生かした各種公開講座等を行います。

**受託試験**

 公的機関として、材料試験などを行うことができます。

お問合せ

木更津工業高等専門学校 庶務課庶務係 までお気軽にお問い合わせください  
 〒292-0041 千葉県木更津市清見台東2-11-1  
 tel.0438-30-4005 fax.0438-98-5717  
 ● ホームページにも情報があります URL <http://www.kisarazu.ac.jp/> E-mail [asyomu-1@aidp.kisarazu.ac.jp](mailto:asyomu-1@aidp.kisarazu.ac.jp)

( 出典 : 2005 地域共同テクノセンターガイドブック )

地域共同テクノセンター施設紹介

**地域共同テクノセンター** // **COOPERATIVE TECHNOLOGY CENTER**

産業界等との連携・協力を行うため、地域共同テクノセンターを置いている。

民間等との共同研究、受託研究、奨学寄付金、技術相談等に関する業務を行い、さらに技術振興交流会を通じて地域社会の活性化に役立っている。

The Center set up in the college in 2001 cooperates with such institutes as businesses, enterprises and companies in the district.

The purposes of the Center are to advance the researches requested by or with other institutes, to help students financially and to be consulted about technological skills.

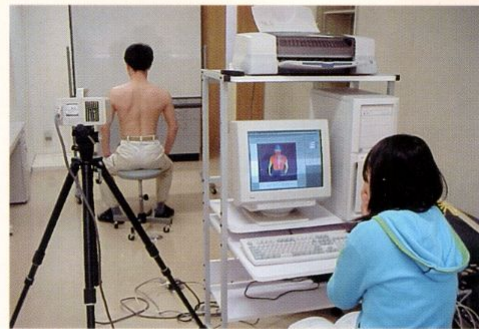
The Center has been useful to lead social activities effectively through the promotive technical cooperation.



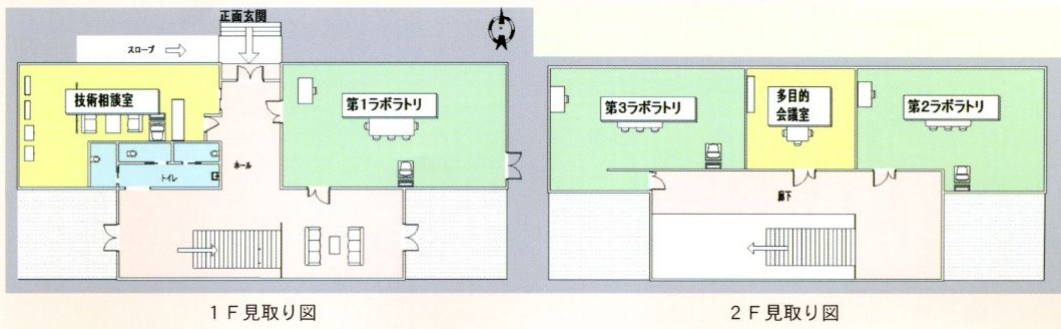
▲第2ラボラトリ (ネットワーク解析システム)  
The 2nd Laboratory



▲第1ラボラトリ (AE解析システム)  
The 1st Laboratory



▲第3ラボラトリ (非接触温度計測システム)  
The 3rd Laboratory



( 出典 : 2005 年学校要覧 21 頁 )



電子顕微鏡室紹介

**電子顕微鏡室**

**ELECTRON MICROSCOPE CENTER**

工業材料に関する教育研究のための共同利用施設として、電子顕微鏡室が設置されており、利用に関する講習を受講すれば利用できる。

これまで、機械材料の破断面・磨耗面の研究、半導体の結晶・薄膜の分析、コンクリート材料の研究など教育研究に大いに活用されている。

主要設備

- 走査型電子顕微鏡（加速電圧 30kV、分解能 4 nm、エネルギー分散形 X 線分光器、3 次元測定装置付き、生物試料観察可能）分析可能元素はホウ素からウランまで。
- X 線分光装置（波長分散形 X 線分光器、加速電圧 30kV 分解能 10nm）
- X 線回折装置（50kV、1.5kW）
- デジタルマイクロスコープ（Hirox DH-2400DP）

The Electron Microscope Center is a common facility of the college for education and research, mainly in the fields of industrial materials, electronic materials and semiconductors.

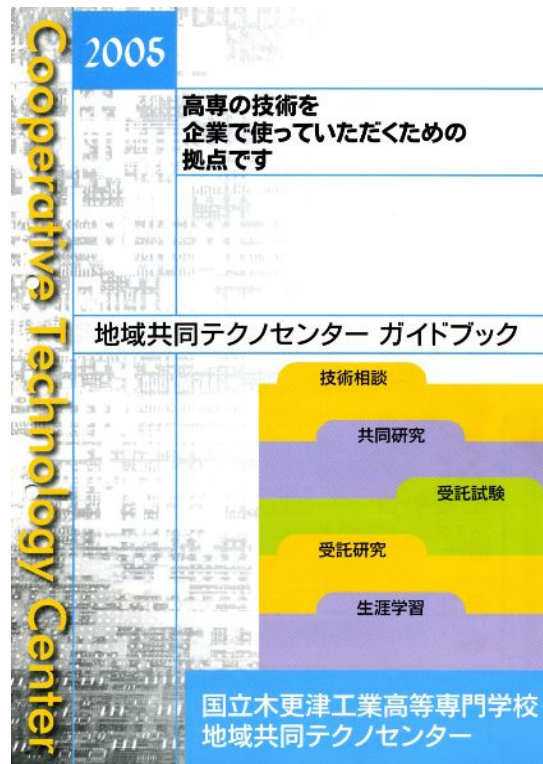
The center operates the following equipment to carry out observation of the surface and analysis of the structure of metals, alloys, crystals, thin films, etc.

- Scanning Electron Microscope with energy dispersive X-ray spectrometer and a three-dimensional measuring device, JSM-5310LV (JEOL Ltd).
- The maximum acceleration voltage is 30kv, and the resolution is 4nm.
- X-ray microanalyzer ASM-SX, (Shimazu Corp.)
- X-ray Diffractometer, (Rigaku Denki Co. Ltd.)
- Digital Microscope, (Hirox Co. Ltd.)



（出典：2005 年学校要覧 23 頁）

2005 地域共同テクノセンターガイドブック



（出典：2005 地域共同テクノセンターガイドブック表紙，現地閲覧資料 26）

教員の研究分野（一部抜粋）

機械工学科 教員の研究分野

職名	教員氏名(学位)	専門分野	相談内容
教授	大藤 見義 Daitoh Teruyoshi D. Eng.	・バイオエンジニアリング ・バイオメカニクス ・カイロプラクティック	・重心動揺 ・筋力測定 ・腰痛, 脊柱側湾症
教授	黒田 孝春 Kuroda Takaharu M. Eng.	・機構学 ・ヒューマンインターフェース ・レーザー加工	・機構設計 ・GA など人工知能の適用 ・各種レーザー加工
教授	高橋 秀雄 Takahashi Hideo D. Eng.	・歯車工学 ・設計工学 ・トライボロジー	・機械要素（歯車等）の強度評価 ・動力伝達装置等の機械設計 ・潤滑油の性能評価
教授	石出 忠輝 Ishide Tadataeru M. Eng.	・可視化画像計測 ・実験流体力学 ・数値流体力学	・PIV 解析方法 ・熱線流速計による流れ場の測定方法 ・二次元粘性流の数値解析方法
助教授	内田 洋彰 Uchida Hiroaki D. Eng.	・機械制御システムの制御 ・ロボットシステムの制御 ・機械運動システムの開発	・ロバスト制御手法を用いた機械制御システムの開発 ・力制御手法を用いたロボットシステムの開発 ・3D 運動機構解析ソフトを用いた機械構造物の設計および開発
助教授	鈴木 久夫 Suzuki Hisao B. Eng.	・機素潤滑設計 ・エンジンシステム ・新エネルギー技術	・トライボロジー ・スターリング機関 ・太陽エネルギー
助教授	小田 功 Oda Isao D. Eng.	・光応用計測 ・光センシング ・光エネルギー	・非接触形状計測システムの開発 ・非接触変位計測システムの開発 ・光学機器の開発
講師	板垣 貴喜 Itagaki Takayoshi M. Eng.	・機械要素（玉軸受の振動） ・トライボロジー ・振動工学	・玉軸受の振動解析 ・グリス潤滑された玉軸受の異常振動
助手	林田 和宏 Hayashida Kazuhiro D. Eng.	・燃焼工学 ・レーザー応用計測 ・微粒化学	・燃焼診断 ・熱流体のレーザー計測 ・液体の微粒化解析

主要設備 FFT アナライザ, 振動試験器, 加速度計, サーモグラフィ, 重心動揺計, 筋力測定器, カイロテーブル, 機械システム制御装置, ロボットシステム, 万能試験機, シャルピー衝撃試験機, 硬さ試験機, 疲労試験機, PIV 解析システム, 二次元風洞, 機械システム制御装置, ロボットシステム, 運動機構解析ソフトシステム, 摩擦摩耗試験機, 情報回路実験設備, 計算機演習設備, 歯車試験機 等々

（出典：2005 地域共同テクノセンターガイドブック，現地閲覧資料 26）

地域共同テクノセンターウェブサイト（活動の目的）

**MENU**

- 新着情報
- 活動目的
- 事業内容
- ご相談の方法
- 施設紹介
- 教員紹介
- 活動報告
- 組織図
- テクノセンター 規程
- ラボの研究成果報告
- 木更津高専技術振興交流会
- 申請書類・報告書 書式

**Technology Collaboration**  
高専の技術力をみなさんへ

- 共同研究
- 受託研究
- 技術相談
- リフレッシュ教育
- 公開講座

地域共同テクノセンターは、共同研究・受託研究・受託試験・技術相談・生涯学習などを集約的にを行い、地域の方々と共に、地域の発展向上に努めるための拠点です

### 活動目的

▶▶ 地域共同テクノセンターは、地域の中小企業を始めとする産業界を対象とした技術相談、共同研究、技術者のリフレッシュ教育を集約的にを行い、地域産業の振興・活性化を助長し、地域の経済力向上に資することを目的とする。（テクノセンター運営規程第2条）

▶▶ 本校の教育研究力を地域に還元し社会的存在意義を高めるために以下の事業の実施を目標とする。（以下項目は、テクノセンター運営規程第3条から）

- 産業界との共同研究及び技術相談等研究交流に関すること
  - ニーズと学内シーズを見極めた研究を推進するため、地域社会とのコミュニケーションを深める
- 学内共同研究に関すること
  - 地域産業界との共同研究の推進
- ものづくり教育の推進に関すること
  - 出前授業などの推進
- 公開講座に関すること。
  - 公開講座、オープンセミナーなどの推進
- 技術セミナー及び技術研修会に関すること
- 電子顕微鏡室の運営に関すること
- その他センターの推進に関する必要な事項

学生の教育  
高専の存在意義  
研究 地域連携

（出典：http://www.kisarazu.ac.jp/techno/index.html，木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンターウェブサイトより）

## 地域共同テクノセンターウェブサイト（教員の紹介）



## 基礎学系

[福地 健一](#)  
 FUKUCHI Ken'ichi  
[関口 昌由](#)  
 EKIGUCHI Masayoshi  
[金子真隆](#)  
 KANEKO MASATAKA  
[高橋邦夫](#)  
 TAKAHASHI kunio  
[鎌田 勝](#)  
 KAMATA Masaru  
[山下 哲](#)  
 YAMASHITA Satoshi  
[田村 和士](#)  
 TAMURA Kazushi  
[吉井 文子](#)  
 YOSHII fumiko

氏名	高橋邦夫（TAKAHASHI kunio）
メールアドレス	<a href="mailto:ntakaha@inc.kisarazu.ac.jp">ntakaha@inc.kisarazu.ac.jp</a>
職名・学位	教授・博士(工学)
研究協力分野	レーザー誘起蛍光(LIF)法による光計測 光応用計測
研究テーマ	LIF法を用いたアクティブリモートセンシングによる植物診断 農水産業への光応用計測
試験装置	YAGレーザー、UVアルゴンレーザー、可視アルゴンレーザー、UVパルス窒素レーザー、 高感度分光計測システム、高感度画像計測カメラ、高感度顕微画像計測システム、 He-Cdレーザー、紫外半導体レーザー
共同研究事例 地域活動	共同研究: さんま魚船の集魚灯開発研究、LIF法を用いたのり診断に関する研究 地域活動: 青少年のためのおもしろサイエンスを実施 学会活動: 照明学会「光源システムにおける環境とエネルギー問題研究調査委員会委員」 植物工場学会関東支部評議委員
所属学会	応用物理学会、レーザー学会、日本リモートセンシング学会、照明学会、分光学会、 写真測量学会、植物工場学会、物理教育研究会、高専学会、計測制御学会
略歴	1. 昭和45年木更津工業高等専門学校に採用 2. 平成3年レーザーによる指紋検出装置の開発で県警本部長より表彰 3. 平成9年照明学会より論文賞 4. 平成14年写真測量学会から学会活動により表彰

（出典：[http://www.kisarazu.ac.jp/%7Egijitu/faculty\\_link\\_frame.htm](http://www.kisarazu.ac.jp/%7Egijitu/faculty_link_frame.htm)，  
 木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンターウェブサイトより）

## テクノセンターニュース

テクノセンターニュース No.8

### 目 次

<b>1. 独立行政法人化後の2年間</b>	
	地域共同テクノセンター長 小平眞次 . . . . . 1
<b>2. 木更津高専研究者紹介</b>	
地域社会の技術振興に貢献したい	機械工学科 黄野 銀介 . . . . . 2
人間の生活と歩行ロボット	電気電子工学科 浅野 洋介 . . . . . 3
実験とシミュレーションを組み合わせた真実の追究	
	電子制御工学科 橋川 五郎 . . . . . 4
再演と巻き戻しによる並列プログラムのデバッグ	
	情報工学科 丸山 真佐夫 . . . . . 5
企業との共同研究事例	環境都市工学科 青木 優介 . . . . . 6
「匂い」をテーマに	基礎学系 吉井 文子 . . . . . 7
地域交流活動としての「連句会」	人文学系 五十嵐 譲介 . . . . . 8
<b>3. 地域連携・産学連携の記録</b>	
公開講座・オープンセミナー	. . . . . 9
テレワークセミナー	. . . . . 10
共同研究・受託研究ならびに奨学寄付金の受け入れ状況	. . . . . 10
科学研究費補助金採択状況	. . . . . 10
<b>4. 取材シリーズ</b>	
地域企業訪問	一ナプソン（株）を訪ねて
	地域共同テクノセンター委員 大澤 寛・五十嵐譲介 . . . . . 11
<b>5. 本校活動の紹介記事</b>	
ポータルサイト木更 CoN	（毎日新聞 平成 17 年 12 月 14 日） . . . . . 15

\*表紙の説明：平成 17 年度末に地域共同テクノセンターに納入される予定の高分解能 X 線回折装置とほぼ同機種の写真（写真提供は千葉大学ベンチャービジネスラボラトリ）

（出典：テクノセンターニュース第 8 号の目次，現地閲覧資料 27）

資料A - 1 - - 11 ( 1 / 2 )

## 2005 年度テクノセンター活動概要報告

日	時間	内容	参加者
4/12(火)	15:00-16:30	新校長に地域共同テクノセンターの活動状況を説明	小平、鈴木聡
4/14(木)	19:00-21:00	木更津商工会議所異業種交流プラザ総会後懇親会	小平、佐藤、仲川
4/19(火)	15:20-17:50	第1回地域共同テクノセンター運営委員会	運営委員
4/27(水)	15:30-17:30	国立科学博物館サイエンススクエアに係る協力者会議(関東地区5高専) 上野国立科学博物館、幹事校木更津高専	小平、大澤
5/9(月)	15:30-17:00	技術振興交流会役員会第1会議室	役員
5/12(木)	18:30-20:30	異業種交流プラザ例会	佐藤、林田
5/18(水)	14:00-17:00	技術振興交流会総会第1講義室	会員
6/8(水)	15:00-18:00	東葛テクノ会第6回通常総会:東葛テクノプラザ	小平、鈴木聡
6/9(木)	15:20-17:00	第1回技術振興交流会分科会委員長会議	分科会委員長他
6/9(木)	18:30-20:30	木更津異業種交流プラザ例会	林田、吉井
6/14(火)	13:15-17:00	千葉県バイオ/ライフサイエンス/ネットワーク会議総会	小平
6/22(火)	15:00-17:10	国立科学博物館サイエンススクエアに係る協力者会議、上野国立科学博	小平、大澤、原、斉藤、仲川
6/28(水)	14:00-18:30	第13回異業種融合化協議会通常総会:ホテルグリーンタワー	小平
6/30(火)	16:30-17:10	第2回地域共同テクノセンター運営委員会	運営委員
7/15(金)	10:00-12:00	城西国際大とのジョイントによるデジタルアーカイブ化に関する打ち合わせ:木更津高専	小平、鈴木聡
7/15(金)	13:00-15:00	サイエンススクエア学生ボランティアへの説明会第1会議室	担当者
8/2(火)	17:30-19:00	会社訪問取材:アロマ工芸	五十嵐、鈴木聡
8/3(水)	14:00-17:40	国立科学博物館サイエンススクエアに係る協力者会議	小平、大澤、斉藤、
8/14(日)	13:00-21:00	城西国際大とのやっさいもっさい踊りの撮影	学生、小平、栗本
8/15(月)	14:00-21:00	城西国際大との花火大会の撮影	学生、小平、栗本
8/16(火) - 8/28(日)	9:30-16:30	2005サイエンススクエア(国立科学博物館にて)	小平、大澤、鈴木聡、佐藤、高橋[邦]、栗本、斉藤、仲川他、 学生ボランティア約10名
8/22(月) - 8/24(水)		全国高専テクノファーム:豊田高専担当、名古屋市次年度担当、関東信 越地区(長岡高専)	小平、鈴木聡、原、斉藤、仲川
8/31(水)		関信地区テクノセンター長会議:茨城高専中会議室	小平
9/2(金)	13:30-17:00	知的財産に関する講習会	佐藤、斉藤
9/5(月)	15:00-17:00	木更津商工会議所工業部会の高専見学会	小平、鈴木聡、佐藤、庶務課
9/6(火)	16:00-17:00	第3回地域共同テクノセンター運営委員会	運営委員
9/6(火)	17:00-16:30	2005サイエンススクエア反省会	関係者
9/9(金)	18:30-20:30	木更津異業種交流プラザ例会	吉井、米村
9/23(金)	12:00-18:30	千葉大学オープンサーチ	小平
9/23(金)	15:00-18:30	産学官フォーラム	小平
9/27(火)	14:00-17:00	第3回テクノフォーラム(本校にて開催)	会員、本校教職員
9/28(水)	17:00-21:00	第3回ビジネス交流会、君津商工会議所工業部会	小平、鈴木聡、斉藤

地域共同テクノセンター長:小平眞次  
副センター長:大澤寛,鈴木聡,佐藤恒明

(出典:平成17年度テクノセンター活動概要報告)

資料A - 1 - - 11 ( 2 / 2 )

2005 年度テクノセンター活動概要報告

日	時間	内容	参加者
10/3(月)	13:30-16:00	知的財産権制度説明会:千葉県自治会館	斎藤、仲川
10/11(火)	16:00-17:00	平成17年度駅前高専「テレワークセミナー」市役所と担当者打合せ	仲川
10/13(木)	18:30-20:30	木更津異業種交流プラザ例会	米村、岡本保
10/24(月)	13:30-16:30	第1回木更津市地域IT推進会議:市民総合福祉会館	鈴木聡
10/29(土)	11:00-16:30	第7回火星ローバーコンテストin千葉千葉ポートアリーナ	梶田
11/4(金)	15:30-17:00	理数大好きモデル地域事業第1回実行委員会:市民総合福祉会館	鈴木聡
11/10(木)	16:00-18:00	第1回知っとこ隊打ち合わせ:テレワークセンター	学生、鈴木聡
11/10(木)	18:30-20:30	木更津異業種交流プラザ	岡本保、熊谷
11/14(月)		内閣府等主催第5回産学官連携サミット東京プリンスホテル	校長
11/14(月)	16:00-18:00	ポータルサイト立ち上げ実務打ち合わせ:市役所	鈴木聡
11/16(水)	15:00-18:30	第22回千葉大学産官学フォーラム	小平
11/21(月)	13:30-17:00	新連携推進県大会:ホテルグリーンタワー千葉	鈴木聡、大澤、仲川
11/22(火)	16:00-17:30	第4回地域共同テクノセンター運営委員会	委員
11/30(水)	17:00-18:00	第2回知っとこ隊打ち合わせ:木更津高専	学生、鈴木聡
12/5(月)	13:00-17:00	特許情報流通セミナー:千葉県支援技術研究所天台庁舎	小平、佐藤
12/8(木)	13:30-17:00	野田異業種との交流会:木更津高専	小平、大澤、鈴木聡、斉藤、仲
12/13(火)	15:30-17:00	新聞社による知っとこ隊取材:クロワッサン	学生、鈴木聡
12/15(木)	16:00-18:00	第2回電源地域雇用促進対策調査事業打合せ:木更津グランパークホテル	大澤、鈴木聡、佐藤
12/16(金)	13:00-15:00	千葉県支援技術研究所との業務協力打合せ	小平
12/21(水)	13:00-14:00	大学研究交流オフィス打合せ	小平、斉藤
12/21(水)	13:30-14:00	木更津市商工会議所青年部50周年記念事業打合せ	小平、大澤、佐藤、斉藤
12/22(木)	16:45-17:45	第2回技術振興交流会分科会委員長会議	分科会委員長他
12/27(火)	9:00-17:00	君津地区商工会議所、交流会理事等関係者への年末挨拶回り	小平、斉藤
1/6(金)	11:00-12:00	木更津商工会議所賀詞交換会	河上校長、小平
1/6(金)	14:00-16:00	木更津市の農産物PR動画作成:木更津市役所	鈴木聡
1/6(金)	17:00-19:00	電源地域雇用促進対策調査事業中小企業経営者若手従業者意見交換会:木更津商工会議所	大澤、鈴木聡
1/12(木)	18:30-20:00	木更津異業種交流プラザ新年会	小平、大澤、斉藤
1/16(月)	13:00-14:00	電源地域雇用促進対策調査事業打合せ	小平、大澤、鈴木聡、斉藤
1/16(月)	17:00-19:00	電源地域雇用促進対策調査事業中小企業経営者若手従業者意見交換会:木更津商工会議所	大澤、鈴木聡
1/17(火)	15:20-17:00	第5回地域共同テクノセンター運営委員会	委員
1/18(水)	15:00-18:30	千葉大学第23回産官学フォーラム	小平
1/19(木)	14:30-16:00	NHK千葉支局による知っとこ隊取材:花のタカウラ	学生
1/20(金)	14:00-17:15	第4回全国高専テクノファーム第1回実行委員会:長岡高専	大澤
1/24(火)	15:30-17:00	理数大好きモデル地域事業第2回実行委員会:市民総合福祉会館	高橋邦
1/24(火)	17:00-19:00	電源地域雇用促進対策調査事業中小企業経営者若手従業者意見交換会:市原マリンホテル	大澤、鈴木聡
1/27(金)	10:00-17:00	電顕室講習会SEM	小平、岡本、他
1/30(月)	14:00-16:00	電源地域雇用促進対策調査事業大手および中小企業経営者意見交換会:市原マリンホテル	大澤、鈴木聡、佐藤
2/3(金)	10:00-11:00	君津商工会議所視察研修打合せ	小平、斉藤
2/3(金)	10:00-17:00	電顕室講習会EDX	小平、岡本、他
2/6(月)	16:00-16:30	しっとこ隊のキャッツアイ記者会見取材打ち合わせ:市役所	学生、鈴木聡
2/7(火)	13:30-14:00	東葛テクノプラザ交流オフィス5階移動依頼	小平、斉藤
2/7(火)	15:00-17:00	君津商工会議所視察研修	小平、大澤、鈴木聡、佐藤、他 実験室担当者
2/9(木)	18:30-20:00	木更津異業種交流プラザ例会	熊谷、小田
2/10(金)	15:30-17:15	技術振興交流会役員会:木更津高専第二会議室	小平、大澤、鈴木聡、佐藤、斉藤、原
2/13(月)	15:00-17:00	第3回電源地域雇用促進対策調査事業打合せ:木更津グランパークホテル	大澤、鈴木聡、佐藤
2/14(火)	15:00-17:00	産学官交流事業:市原商工会議所	小平、大澤
2/16(木)	13:30-16:30	第3回木更津市地域IT推進会議:市民総合福祉会館	鈴木聡
2/17(金)	20:10-22:00	木更津市商工会議所青年部モノづくり体験	小平、大澤、高橋邦、栗本、飯
2/20(月)	15:00-17:00	会社訪問取材:ナブソン	五十嵐、大澤、鈴木聡
2/23(木)	10:00-12:00	上総博物館協議会	小平
2/27(月)	17:00-18:30	第6回地域共同テクノセンター運営委員会	運営委員
2/28(火)	15:00-17:00	第4回電源地域雇用促進対策調査事業打合せ:木更津ロイヤルガーデン	大澤、鈴木聡、佐藤
3/6(月)	13:30-18:00	ビジネスマッチングフォーラム:ホテルグリーンタワー千葉	大澤、佐藤
3/7(火)	10:00-12:00	佐世保高専派遣者の来校:佐世保高専、長島、堀江	大澤、鈴木、斉藤
3/9(木)	18:30-20:30	木更津異業種交流プラザ例会	鬼塚(講演)
3/13(月)	14:00-15:15	講演会「地域企業と大学等の連携手法について」農工大TLO伊藤伸社長	教員
3/13(月) - 17日		平成17年度経済産業省検索エキスパート研修を受講(独)工業所有権情報/研修館	浅野
3/14(火)	14:00-18:30	木更津高専技術振興交流会の第4回テクノフォーラム	会員、本校教職員
3/15(水)	17:00-18:00	木更津商工会議所青年部との打ち合わせ	大澤
3/16(木)	13:00-15:00	千葉県産業振興センターで打ち合わせ	大澤
3/22(水)	16:00-18:00	IT推進会議委員による知っとこ隊慰労会:テレワークセンター	鈴木聡
3/27(月)	13:30-15:00	大学研究交流オフィス担当者連絡会議:東葛テクノプラザ	鈴木聡
3/29(水)	14:00-16:00	第1回高専/中小企業連携プログラム策定検討会中小企業基盤整備機構	大澤

( 出典 : 平成 17 年度テクノセンター活動概要報告 )

## 2005 年度東葛テクノプラザ技術相談会

## 【8月期】

相談日時	担当教員名	専門分野
8月8日(月) 11:00 - 15:00	電気電子工学科 熊谷 勝彦 教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 画像処理</li> <li>・ ヒューマンインタフェース</li> <li>・ 風力の効率的利用法</li> </ul>
8月9日(火) 11:00 - 15:00	環境都市工学科 大木 正喜 教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 測量学</li> <li>・ リモートセンシング</li> </ul>
8月19日(金) 11:00 - 15:00	機械工学科 林田 和弘 助手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 燃烧工学</li> <li>・ レーザ応用計測</li> <li>・ 微粒化学</li> </ul>
8月25日(水) 11:00 - 15:00	基礎学系 吉井 文子 助教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 香料化学</li> <li>・ 計算化学</li> </ul>
	電子制御工学科 坂元 周作 助手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 超伝導工学</li> <li>・ 計測工学</li> </ul>

## 【3月期】

相談日時	担当教員名	専門分野
3月17日(金) 11:00 - 15:00	電子制御工学科 鴫田 正俊 教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自動制御</li> <li>・ ロボット</li> </ul>
3月22日(水) 11:00 - 15:00	基礎学系 山下 哲 助教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学</li> </ul>
	機械工学科 黄野 銀介 助手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機械材料</li> <li>・ 精密加工</li> </ul>
	環境都市工学科 鬼塚 信弘 助教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地盤工学</li> <li>・ 地震工学</li> <li>・ 地質工学</li> </ul>

(於：東葛テクノプラザ3F 技術支援室)

(出典：平成17年度地域共同テクノセンター事業活動報告)



2001年度テクノセンター講演会

第1回テクノセンター講演会(2001年6月15日)

- 「企業の活性化へ向けて 21世紀型研究の勧め」講師：コンボン研究所 H氏
- 「産業交流の先進校における技術交流 企業の技術開発への支援」講師：群馬高専 O氏

第2回テクノセンター講演会(2002年1月22日)

- 「産学官に関する千葉県の支援と取り組みについて」講師：千葉県産業振興センター東葛テクノプラザ共同研究グループ S氏
- 「特許・技術・研究成果(企業・大学・高専等)の活用支援について」講師：発明協会千葉県支部千葉検知的所有権センター 特許流通アドバイザー I氏

(出典：テクノセンターニュース第2号2頁)

木更津工業高等専門学校技術振興交流会の立ち上げ

〈 日刊工業新聞 〉  
Business & Technology 2004年(平成16年)2月26日 木曜日 ☆30

## 千葉・木更津工業高専 技術交流会立ち上げ

### 会議所・異業種 プラザと 活性化へ連携

【千葉】木更津工業高等専門学校(千葉県木更津市)は、産学連携を加速する。3月9日に木更津商工会議所、木更津異業種交流プラザと共同で技術振興交流会(高専交流会)を立ち上げる。地元産業界を中心に共同研究や人的交流を推進する。技術面の助言に加え、研究にかかわる補助金の申請や特許出願など総合的に企業活動を支援する。同高専を連携の拠点にして地元経済の活性化につなげるのが狙い。

本高専高専などが計画している同交流会は、9日の設立総会で発足する。事務局は高専内に置き、会員組織で年会費は企業1万円、個人は5000円とする。すでに企業50社、個人23人が参加の意向を表明している。事業内容は技術交流活動と分科会活動が2本柱。主体となる分科会活動では環境保全、医療、福祉、ロボット、情報、通信、伝送工業など10のテーマを設け、それぞれ共同研究を進める。

高専教員が各分科会の委員長に就いて企業の相談に応じ、校内の各種設備を開放して企業が研究に活用できるようにする。案件によっては、県内大学や公的機関などと連携しながら柔軟に対応する。また高専教員の研究内容の紹介や産業界、企業の製品展示などを行う交流会活動を年1回以上開催する。産学に合わせた場を提供する。

国立大学と同様に高専も4月の独立法人化を目指す。同校はこれまでに地域共同テクノセンターを設立し、産学連携に取り組んでいるが、地元企業と連携するケースは少なかった。交流会の設立を機に、校内のノウハウをより広く開放して産学創出を促し、地元経済の下支えを図る。

### 岩手に鋳物工場

製作 シグマ 花泉町のリース制度利用  
【盛岡】シグマ製作所(増玉興川町、大藤蔭048-2882)は、岩手に鋳物工場を建設する。建設機用部品やトラック部品の需要増に対応する。3月3日に同町と土地協定を結び、9月に操業を始める。同町にまたび、シグマ

### 図書館でビジネス支援

【厚木】神奈川県厚木市は、5月から市立図書館で2回程度、内容に応じて相模原商工会議所や相模

(出典：2004年2月26日付日刊工業新聞)

資料A - 1 - - 15 ( 1 / 2 )

## 木更津工業高等専門学校技術振興交流会会則

第 1 条 本会は、木更津工業高等専門学校技術振興交流会（略称は「高専交流会」、以下「本会」という。）と称する。

（目的）

第 2 条 本会は、木更津工業高等専門学校（以下「木更津高専」という。）の教育研究の充実に協力するとともに、木更津高専並びに会員相互の連携・協力を深めて産業技術の振興を図り、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

（事務局）

第 3 条 本会に事務局を置く。

2 事務局に事務局長を置き、理事のうち 1 名をもって充てる。

3 事務局の設置場所は、会長が指定する。

（事業）

第 4 条 本会は、第 2 条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 技術及び実務に関する交流会・講演会の開催に関すること

(2) 産学連携による技術開発の推進に関すること

(3) 会員及び地域社会の発展に寄与する事業に関すること

(4) 木更津高専の教育・研究の充実に関すること

(5) その他本会の目的達成に必要な事業に関すること

（組織及び会員）

第 5 条 本会は、本会の目的に賛同する一般会員及び特別会員で組織する。

2 一般会員は、企業会員並びに個人会員とする。

3 特別会員は次の各号とする。

(1) 大学、官公署、商工会議所等の公的機関

(2) 木更津工業高等専門学校教職員及び入会を希望する退職した教職員

（役員）

第 6 条 本会に、次の役員を置く。

(1) 会長 1 名 (2) 副会長 4 名 (3) 理事 若干名 (4) 監事 2 名 (5) 幹事 若干名

（役員任期）

第 7 条 役員任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（役員選出）

第 8 条 会長は、総会において選出する。

2 副会長は、会長が委嘱する。

3 理事は、総会において選出する。

4 監事は、総会において選出する。

5 幹事は、役員会において決定する。

（役員任務）

第 9 条 会長は、本会を代表し、会務を統括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 理事は、本会の業務の運営に当たる。

4 監事は、本会の業務状況及び会計を監査する。

5 幹事は、本会の庶務を行う。

（出典：庶務課資料）

## 木更津工業高等専門学校技術振興交流会会則

( 顧問・参与 )

第 10 条 本会に、事業を円滑に推進するため、顧問及び参与を置くことができる。

2 顧問及び参与は、会長の諮問に応ずるとともに、会議に出席して意見を述べることができる。

3 顧問及び参与は、役員会において決定する。

( 会議 )

第 11 条 本会の会議は、総会及び役員会とし、会長が招集し、議長となる。

( 総会 )

第 12 条 総会は、定期総会及び臨時総会とし次の事項を審議する。

(1) 運営の基本方針に関すること。

(2) 事業計画並びに予算決算に関すること。

(3) 役員の選出に関すること。

(4) その他本会の目的達成に必要なこと。

2 総会は、会員の過半数の出席 ( 委任状を含む ) をもって成立し、議事は出席者の過半数をもって決する。ただし、第 5 条第 3 項第 2 号に定める者 ( 役員を除く ) については、議決権を有しない。

( 役員会 )

第 13 条

役員会において審議する事項は、次のとおりとする。

(1) 総会に提出する議案及び重要事項を審議する。

(2) その他会務遂行上必要と認められる事項

2 役員会は、役員の過半数以上が出席しなければ議事を開くことができない。

3 役員会の議事は、出席者の過半数をもって決する。

( 分科会 )

第 14 条 本会に、分科会を置くことができる。

2 分科会の組織及び運営については、別に定める。

( 運営費 )

第 15 条 本会の運営費は、会費及び寄付金等をもって充てる。

2 年会費は一般会員のうち企業会員については 1 万円、個人会員については 5 千円とする。

3 特別会員については、会費を免除する。

( 会計年度 )

第 16 条 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

( その他 )

第 17 条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は、役員会で定める。

附 則

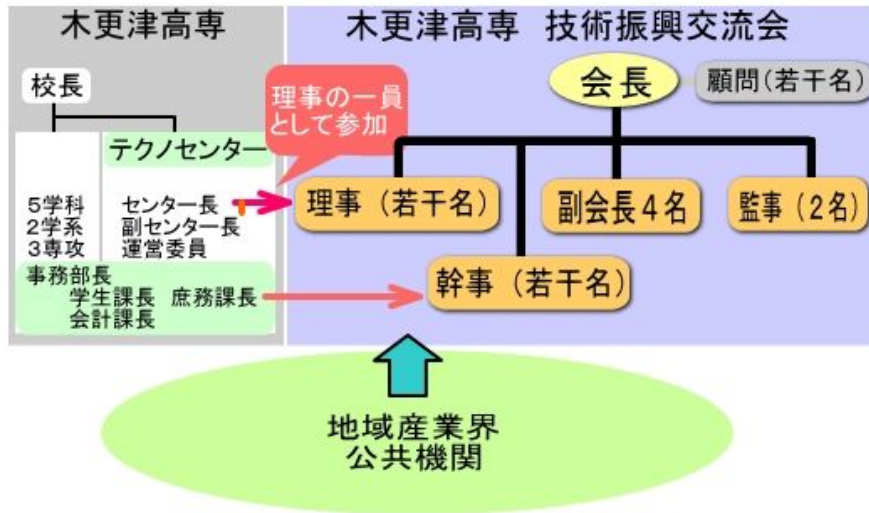
この会則は、平成 16 年 3 月 9 日から施行する。

附 則

この会則は、平成 17 年 5 月 18 日から施行する。

( 出典：庶務課資料 )

木更津高専技術振興交流会組織図  
木更津高専技術振興交流会 組織図



木更津高専技術振興交流会は木更津高専とは別組織になっていて、役員のほとんどを地域企業・商工会議所などの公共機関の方をお願いしています。

木更津高専からは学校の庶務課長が、技術振興交流会の幹事として参加しており、木更津高専テクノセンターのセンター長、副センター長が理事として参加しています。

( 出典 : [http://knct-koryu.jp/organization\\_figure.htm](http://knct-koryu.jp/organization_figure.htm) ,  
木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンターウェブサイトより )

資料A - 1 - - 17 ( 1 / 2 )

## 技術振興交流会の分科会参加状況

平成 18 年 3 月 31 日現在

	分 科 会 名 ・キーワード	委員長・副委員長	メンバー（上段：学内，下段：学外）
1	環境管理技術 ・木炭・活性炭 ・廃棄物 ・バイオマス ・循環型社会 ・生態環境 ・環境経済評価	委員長 高橋克夫 副委員長 学外委員 （（有）インテックサ ーチ）	学内：高橋克，上村，高石，相川，佐藤， 鈴木久，高橋邦，石川雅朗，鬼塚，青木 学外：22 名
2	医療・福祉機器 ・医療・健康機器 ・福祉機器 ・カイロプラクティック分野 （重心動揺，短下肢，側彎，骨盤の捻れ， 筋力バランス等）	委員長 大藤晃義 副委員長 学外委員 （医療法人社団鵬会 ケアセンターきさら づ）	学内：大藤，黒田，内田，小田，板垣， 栗本，鬼塚 学外：10 名
3	教材開発 ・教材開発	委員長 高橋邦夫 副委員長 学外委員 （木更津第一中学校）	学内：高橋邦夫，岩崎，小澤，金子，小 田，大澤，岡本保，鈴木聡，臼井，栗本， 丸山，大枝 ，加藤，飯田，浅野，青木， 鈴木道治 学外：12 名
4	光応用技術 ・光計測 ・レーザ ・発光ダイオード	委員長 岡本保 副委員長 学外委員 （国際化工（株））	学内：岡本保，福地，小田，林田，大澤， 高橋邦，鈴木聡，秋葉 学外：2 名
5	社会基盤のメンテナンス ・コンクリート構造物の劣化診断や補 修・補強	委員長 黒川章二 副委員長 学外委員 （太陽工業株式会社）	学内：黒川，鬼塚，青木，嶋野 学外：11 名
6	ロボット・自動化 ・ロボットの設計や制御技術 ・計測，制御技術 ・FA，工場自動化技術	委員長 鶴田正俊 副委員長 学外委員	学内：鶴田，黒田，内田，鈴木聡，浅野， 中根 学外：10 名
7	通信・アンテナ ・移動体アンテナ ・ミリ波機器 ・ネットワークアナライザ	委員長 石井孝一 副委員長 学外委員 （鈴木電気管理事務 所）	学内：石井，小平，角田，泉，浅野，立 石 学外：4 名
8	画像情報 ・三次元情報計測 ・不可視情報の画像化 ・人工現実感，遠隔制御 ・神経難病等のコミュニケーション支援 ・パターン認識，視覚心理 ・医療画像診断	委員長 栗本育三郎 副委員長 学外委員 （株）写楽館 ） 齋藤康之	学内：栗本，小林，斉藤，米村，小田， 臼井 学外：4 名

（出典：庶務課資料）

資料A - 1 - - 17 ( 2 / 2 )

## 技術振興交流会の分科会参加状況

	分科会名 ・キーワード	委員長・副委員長	メンバー(上段:学内,下段:学外)
9	機械・制御系 ・機械要素 ・材料試験 ・機構設計と制御 ・振動 ・流れ計測とシミュレーション ・エネルギー ・試作 ・レーザ計測とレーザ加工	委員長 黒田孝春 副委員長 学外委員 ( (有)三ツ矢精密)	学内:黒田,大藤,高橋秀,石出, 内田,小田,鈴木久,板垣,黄野, 林田 ----- 学外:11名
10	電子・電気系 ・電子回路 ・磁気応用 ・センサー ・コンピュータ ・自然エネルギー利用	委員長 大澤寛 副委員長 学外委員 (富津オートサービス)	学内:大澤,熊谷,石川,上原,岡 本保,飯田,石井,浅野,橘川,鈴 木聡,石出,坂元 ----- 学外:6名
11	情報系 ・コンピュータシミュレーション ・情報通信システム ・計測システムとインターフェース ・ニューラルネットワークと信号処理 ・情報数理の基礎 ・並列プログラミング	委員長 天摩勝洋 副委員長 学外委員 (株)エーアイエス 増田重史	学内:天摩,栗本,和田,丸山,増 田,東,小林,和崎,斎藤,大枝, 倉持,青柳 ----- 学外:5名
12	環境・土木系 ・ウォーキングと路面舗装 ・鋼・コンクリート・地盤などの構造系 ・環境空間デザイン ・環境材料	委員長 佐藤恒明 副委員長 学外委員 (関東建設株式会社)	学内:佐藤,高橋克,鬼塚,青木, 金井,白井 ----- 学外:18名
13	自動車リサイクル技術 ・フロントガラスの除去	委員長 高橋秀雄 副委員長 学外委員 ( (有)君津マイカーセン ター)	学内:高橋秀,石井,高上 ----- 学外:5名
14	異業種融合 ・有機材料 ・複合材料 ・伝統文化 ・工芸 ・エネルギー技術 ・資源リサイクル技術 ・水産・農林系基盤技術 ・生活工学	委員長 小平眞次 副委員長 学外委員 (ITトロン社長) 石出忠輝	学内:小平,鈴木聡,石出,高橋邦, 五十嵐,石井,浅野,相川,大澤, 佐藤,吉井, 飯田,岡本 ----- 学外:39名

(出典:庶務課資料)

## テクノフォーラムの内容

### 第1回テクノフォーラム 2004年8月26日(木)

14:00 開会

14:10 分科会の活動指針についての報告

- ・分科会活動全般について
- ・自動車リサイクル技術分科会
- ・環境・土木系分科会
- ・ロボット自動化分科会
- ・教材開発分科会

講演

「我が社の経営 ～研究開発と多角化戦略を中心に～」

春川鉄工(株) 代表取締役 H氏

「アクアライン 800円運動の現状と房総観光拠点整備への取り組み」

(株)総洋リサイクル代表取締役 I氏

施設見学等

- ・地域共同テクノセンター，総合教育棟
- ・会員企業のPR，高専教員等の研究内容展示
- ・技術相談

17:00 懇親会

### 第2回テクノフォーラム 2005年3月7日(月)

14:00 開会

14:10 分科会の活動報告について

- ・分科会活動全般について
- ・分科会活動から共同研究に発展した事例報告

講演

「サンマ魚用集魚灯の研究開発における公的資金導入事例について」

国際化工(株) 顧問 K氏

「地域活性化の活動について」

NPO法人 孫の手くらぶ理事長 M氏

施設見学等

- ・地域共同テクノセンター，総合教育棟
- ・会員企業のPR，高専教員等の研究内容展示
- ・技術相談

17:00 懇親会

(出典：テクノフォーラム配布資料)

## テクノフォーラムの内容

### 第3回テクノフォーラム 2005年9月27日(火)

14:00 開会

14:10 講演

「中小企業新事業活動促進法の概要について」

千葉県商工労働部経営支援課経営支援室 副主幹 U氏

「充実したシニアライフを目指して ～還暦からの出発～」

(株)さわや 代表取締役 O氏

分科会の活動報告

・分科会活動全般について 分科会担当理事 佐藤恒明

・地域教育機関等との連携 教材開発分科会委員長 高橋邦夫

施設見学等

・地域共同テクノセンター，総合教育棟

・会員企業のPR，高専教員等の研究内容展示

・技術相談

17:10 懇親会

### 第4回テクノフォーラム 2006年3月14日(火)

14:00 開会

14:10 講演

「異業種連携で技術振興と地域振興を考える」

神奈川県異業種グループ連絡会議 理事 S氏

分科会活動報告

分科会活動の全体報告 分科会担当理事 佐藤恒明

「サンマ魚用集魚灯の研究開発」

国際化工(株) 顧問 K氏

施設見学等

・地域共同テクノセンター，総合教育棟

・会員企業のPR，高専教員等の研究内容展示

・技術相談

17:00 懇親会

(出典：テクノフォーラム配布資料)



(分析結果とその根拠理由)

地域社会との連携窓口としてテクノセンターを設置し、センター長を中心に、各学科学系から選出された運営委員会により、運営規程に従って適切に運営されている。共同研究、受託研究、技術相談、奨学寄附金の受け入れ等、窓口をテクノセンターに一本化し、センター施設内に、技術相談室、多目的会議室、ラボラトリを整備する等、教員が地域と連携をとって研究を進めるための体制が整っている。

実際に地域社会と情報を交換し連携を深める場として、技術振興交流会を発足し、14の分科会を設置して学外委員との相互交流を積極的に行っている。また、一般に開かれたテクノフォーラムを年間2回開催し、学会会員による講演会、技術相談会等を開催することで、精力的にニーズの探索を行っている。

テクノセンターガイドブック(年間1回、各1000部)及びテクノセンターニュース(年2回、各300部)の発行やウェブページを用いて、テクノセンターの業務内容、教員の研究テーマ及び技術紹介、技術振興交流会分科会の活動成果等のシーズの発信を行っている。

以上のことから、本校の目的に沿った研究体制及び支援体制は適切に整備され機能していると判断できる。

観点1 - : 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況)

直近の5年間(2001年3月~2006年3月)に、新たに博士号の学位を取得した現職教員の数は11名(資料A-1-1)であり、2006年3月31日現在、理科系教員の博士号取得率は64.0%となった。また、直近の5年間(2000年10月~2005年9月)に木更津工業高等専門学校紀要の研究業績目録に報告された論文発表件数は学内紀要発表を含めて255件(学内共著者による重複カウントを含まず)、学会発表件数は285件(学内共同発表者による重複カウントを含まず)、各種受賞は13件であった(資料A-1-2)。科学研究費補助金に関しては、2002年6月に文部科学省研究振興局研究助成課企画室長による科学研究費補助金制度講演会を開催し(資料A-1-3)、教職員に対して制度の詳しい説明を行っており、近年の採択状況は、継続分を含めると毎年6~8件で、助成金額は2006年度が11,300千円であった(資料A-1-4)。これらのことから、本校における研究活動が活発に行われており、その成果を地域社会に還元するための素地が十分出来上がっているものと評価できる。

過去5年間(2001年度~2005年度)の共同研究、受託研究、奨学寄附金、受託試験の件数(資料A-1-5)を見ると、それぞれ年々増加の傾向があり、特に共同研究は、2001年度は1件であったが、2005年度には9件に増加した。これには、技術振興交流会の分科会における成果が大きく寄与しているものと考えられる。参考として平成17年度の共同研究、受託研究の詳細(資料A-1-6)及び奨学寄附金の詳細(資料A-1-7)を示す。また、資料A-1-6(平成17年度共同研究・受託研究申込一覧)に示した共同研究等の取り組み内容が、準学士課程の卒業研究テーマや専攻科課程の特別研究テーマとして扱われた事例は18件あり(資料A-1-8)、外部機関との共同研究が教育活動にも活かされていると評価できる。

地域連携に関連した企業との共同研究(2001年度~2005年度)における「技術・製品等の創出・改善」の実績は21件、「特許等の出願」は2件、「特許等の取得」は1件であった(資料A-1-9)。地域連携に関連した外部機関との共同研究(2001年度~2005年度)における「論文発表」は10

件、「研究成果報告書」は1件、「学会発表」は23件、「各種賞受賞」は2件であった（資料A - 1 - - 10）。

次に技術振興交流会に関して、本校教職員以外の会員数は、2006年4月1日現在、企業会員数80、特別会員数14、個人会員数20であり、様々な業種の企業、近隣の小中学校が会員となっている（資料A - 1 - - 11）。各分科会の活動もたいへん活発に行われており、2004年度は2回の委員長会議と14の分科会で延べ55回の会議（特別講演会を含む）が開催され、2005年度は2回の委員長会議と14の分科会で延べ43回の会議（講演会を含む）が開催された（資料A - 1 - - 12）。

テクノフォーラムは、資料A - 1 - - 18（第1回から4回テクノフォーラムの内容）に示した内容で2004年8月（105名）、2005年3月（95名）、2005年9月（108名）、2006年3月（108名）と既に4回開催され、多くの参加があった（参加者名簿は現地閲覧資料1として示す）。開催の様子は地元のケーブルTVで放映され、各種報道機関が取材に来る等、活気に満ちたものであった（資料A - 1 - - 13）。

資料A - 1 - - 1

## 現職教員の学位取得状況

番号	年月	教員名	学位	授与機関	タイトル
1	2001.3	高橋秀雄	博士(工学)	山形大学	歯付ベルト用撚りコードの強度に及ぼす力学的諸因子の影響に関する研究
2	2001.3	鬼塚信弘	博士(工学)	東洋大学	基盤の縦ずれ断層運動に伴う表層地盤の破壊伝播メカニズムに関する基礎的研究
3	2001.3	大塚浩史	博士(理学)	東京工業大学	2次元非圧縮性完全流体の渦度の変分法による解析
4	2002.3	齋藤康之	博士(工学)	北陸先端科学技術大学院大学	appearanceベースとmodelベースによる眼鏡顔画像からの眼鏡なし顔画像の推定
5	2002.1	加藤達彦	博士(文学)	東北大学	坂口安吾論
6	2004.3	鈴木聡	博士(工学)	千葉大学	緑色レーザーダイオード用六方晶 - 族化合物半導体薄膜に関する研究
7	2004.3	大枝真一	博士(工学)	東京都立科学技術大学	免疫型マルチエージェントニューラルネットワークの提案
8	2004.9	福地健一	博士(工学)	千葉大学	レーザー誘起蛍光法を用いた植物葉の環境ストレス評価に関する研究
9	2006.3	黒田孝春	博士(学術)	千葉大学	YAGレーザー第4高調波を用いたシリコンの流水中加工におけるNNとGAを併用したレーザー照射条件の推定
10	2006.3	丸山真佐夫	博士(工学)	豊橋技術科学大学	再演と巻き戻し実行に基づく並列プログラムのデバッグ手法の研究
11	2006.3	石川雅朗	博士(水産学)	東京水産大学	魚道の評価のための魚群行動モデルに関する研究

(出典：庶務課資料)

学内紀要に報告された論文発表等の件数

期間	研究論文	本校紀要	学会発表	著書・訳書等	学会賞等
2000年10月～2001年9月	33	20	57	9	5
2001年10月～2002年9月	31	16	52	8	2
2002年10月～2003年9月	35	22	50	6	3
2003年10月～2004年9月	25	26	74	7	1
2004年10月～2005年9月	31	16	52	8	2
計	155	100	285	38	13

(件数には、共著者・共同発表者の重複カウントを含んでいない)

(出典：木更津工業高等専門学校紀要 35号～第39号研究業績目録)

科学研究費補助金制度講演会資料

木更津工業高等専門学校  
科学研究費補助金制度講演会日程表

1. 日 時 平成 14 年 6 月 27 日 ( 木 ) 15 : 30 - 16 : 50
2. 場 所 図書館ホール
3. 参加者 本校教職員 約 70 名
4. 講 師 文部科学省研究振興局研究助成課企画室長
5. 次 第 進行 庶務課長  
 15 : 30 ~ 開会  
 15 : 32 ~ 教務主事挨拶  
 15 : 37 ~ 「科学研究費補助金制度について」講演  
 文部科学省研究振興局研究助成課  
 企画室長  
 16 : 30 ~ 質疑応答  
 16 : 50 閉会
6. 配布資料 科研費 ( 21 世紀の知的基盤形成を担う独創的・先駆的な研究の推進 )  
 [ 文部科学省・日本学術振興会 作成 ]

( 出典 : 庶務課資料 )

資料A - 1 - - 4

## 科学研究費補助金制度採択状況

(単位 千円)

年度	基盤 B		基盤 C		奨励 A		奨励 B	若手 B		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	件数	金額	件数	金額
2001 年度	(1)	2,300	1	1,800	1(4)	3,900				2(5)	8,000
2002 年度			3(1)	5,100				2	1,900	5(1)	7,000
2003 年度			1(2)	2,500				3(1)	5,400	4(3)	7,900
2004 年度			1(2)	2,000				1(4)	3,900	2(6)	5,900
2005 年度			(2)	1,300	2	1,440		1(2)	3,400	3(4)	6,140
2006 年度			5(1)	10,200				(1)	1,100	5(2)	11,300

( )は継続分

(出典：庶務課資料)

資料A - 1 - - 5

## 共同研究，受託研究，奨学寄附金，受託試験の件数

(単位 千円)

年度	2001 年度		2002 年度		2003 年度		2004 年度		2005 年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	1	3,000	1	2,000	3	5,600	7	10,230	9	13,610
受託研究	0	0	0	0	2	1,250	1	105	3	1,618
奨学寄附金	15	11,700	16	11,563	16	9,180	20	12,930	18	10,900
受託試験	25	169	32	353	68	636	23	152	57	125

(出典：平成 16・17 年度地域共同テクノセンター事業活動報告)

資料A - 1 - - 6

平成 17 年度共同研究・受託研究申込一覧

平成 17 年度共同研究申込一覧

平成18年2月28日 現在

(単位：円)

学 科 等	研究担当者	研究題目	共同研究者（企業等名）	申込（受入）年月日	申込金額
電気電子工学科	岡 本 保	放射線検出用CdZnTe膜の膜質向上（2）	(株)島津製作所	平成17年4月27日	3,000,000
電子制御工学科	鈴木 聡	高感度ポテンシオスタット性能改善の研究	(株)カケンジェネックス	平成17年4月27日	500,000
環境都市工学科	黒川 章二	塩害劣化環境に位置するRC建造物の維持管理手法の構築に関する研究	東電工業(株)	平成17年6月9日	6,500,000
機械工学科	林 田 和 宏	灯油燃料性状の火災温度、火災輝度への影響に関する検討	(財)石油産業活性化センター	平成17年6月20日	1,120,000
電子制御工学科	鈴木 聡	SiC中間層を仲介としたSi上高品位 - 族窒化物半導体の成長とその光学評価	長岡技術科学大学	平成17年7月1日	430,000
環境都市工学科	佐藤 恒 明	既設耐候性鋼橋の腐食調査に基づいた適用範囲の拡大に関する研究	長岡技術科学大学	平成17年7月1日	360,000
電子制御工学科	角 田 幸 紀	マルチバンドアンテナの研究	日本電気(株)	平成17年10月12日	500,000
機械工学科	黒 田 孝 春	レーザー光によるボールネジの焼き入れ法の開発	黒田精工(株)	平成17年11月18日	200,000
機械工学科	高 橋 秀 雄	撚りコードの力学的解析に関する研究	(株)ブリジストン	平成18年1月31日	1,000,000
9 件					13,610,000

平成 17 年度受託研究申込一覧

平成18年2月28日 現在

(単位：円)

学 科 等	研究担当者	研究題目	委託者（企業等名）	申込（受入）年月日	申込金額
環境都市工学科	上 村 繁 樹	微生物による硫黄酸化還元サイクル機能を活性化した次世代の水資源循環技術の開発に関する先導調査	寿工業(株)	平成17年6月15日	367,500
機械工学科	大 藤 晃 義	介護予防事業	木更津市	平成17年9月5日	1,050,000
電子制御工学科	鈴木 聡	P I C C P U の部品化	ナブソン(株)	平成17年9月16日	200,000
3 件					1,617,500

(出典：会計課資料)

資料A - 1 - - 7

平成 17 年寄付金受入実績一覧

(単位：円)

学 科 等	寄 附 金 の 名 称	寄 附 目 的	寄 附 者	申 請 年 月 日	寄 附 金 額	受 入 年 月 日
環境都市工学科	高橋克夫奨学寄附金	研究助成のため	(株)建設企画コンサルタント	平成17年3月23日	800,000	平成17年5月18日
環境都市工学科	黒川章二奨学寄附金	研究助成のため	フジモリ産業(株)	平成17年3月23日	500,000	平成17年5月20日
環境都市工学科	上村繁樹奨学寄附金	研究助成のため	(財)双葉電子記念財団	平成17年3月23日	1,000,000	平成17年5月17日
環境都市工学科	上村繁樹奨学寄附金	研究助成のため	(財)国土技術研究センター	平成17年3月28日	1,000,000	平成17年4月26日
機械工学科	高橋秀雄奨学寄附金	研究助成のため	(社)精密工学会	平成17年4月18日	600,000	平成17年5月23日
環境都市工学科	黒川章二奨学寄附金	研究助成のため	日本板硝子(株)	平成17年4月28日	500,000	平成17年5月31日
機械工学科	林田和宏奨学寄附金	研究助成のため	(財)日本科学協会(納付者は研究担当者)	平成17年5月16日	540,000	平成17年6月7日
機械工学科	黒田孝春奨学寄附金	研究助成のため	(株)ケーアイテクノ	平成17年5月19日	300,000	平成17年6月9日
電子制御工学科	橘川五郎奨学寄附金	教育実践研究助成のため	(社)発明協会(納付者は研究担当者)	平成17年5月26日	330,000	平成17年6月17日
機械工学科	大藤晃義奨学寄附金	研究助成のため	(社)軽金属学会(納付者は研究担当者)	平成17年6月16日	150,000	平成17年6月29日
木更津高専	木更津高専奨励奨学寄附金	教育奨励のため	木更津工業高等専門学校後援会	平成17年6月20日	3,690,000	平成17年6月30日
機械工学科	黒田孝春奨学寄附金	研究助成のため	(有)ブローペース	平成17年8月17日	100,000	平成17年9月30日
環境都市工学科	石田博樹奨学寄附金	研究助成のため	(財)青葉工業振興会	平成17年8月19日	250,000	平成17年9月13日
電子制御工学科	鴛田正俊奨学寄附金	研究助成のため	林 護	平成17年8月30日	100,000	平成17年9月8日
環境都市工学科	佐藤恒明奨学寄附金	研究助成のため	(社)日本鉄鋼連盟	平成17年11月9日	170,000	平成17年12月9日
環境都市工学科	鬼塚信弘奨学寄附金	研究助成のため	(社)日本鉄鋼連盟	平成17年11月9日	170,000	平成17年12月9日
人文・基礎学系	一般教育研究会奨学寄附金	一般教育研究助成のため	(株)学術図書出版社	平成18年1月5日	400,000	平成18年1月19日
機械工学科	高橋秀雄奨学寄附金	研究助成のため	アムテック(有)	平成18年2月28日	300,000	平成18年3月13日
18 件					10,900,000	

(出典：会計課資料)

資料A - 1 - - 8

共同研究等が学生の研究テーマとなった例(2005年度)

指導教員	企業名	テーマ
岡本 保	島津製作所(株)	・近接昇華法による放射線検出用CdZnTe多結晶膜の作製と評価 ・フォトルミネッセンス法によるCdZnTe多結晶膜の評価 ・CdZnTe多結晶膜の基板温度依存性の検討 ・CdZnTe膜のPLスペクトルの励起光強度依存性 ・CdZnTeのX線吸収特性の解析 ・近接昇華法による放射線検出用CdZnTe多結晶膜の作製
角田幸紀	日本電気(株)	・マルチバンドアンテナの研究
黒川章二	東電工業(株)	・RC梁の鉄筋及び腐食鉄筋を持つRC梁の疲労
青木優介	東電工業(株)	・硝酸銀噴霧法におけるコンクリート変色境界の塩化物イオン濃度
青木優介	東電工業(株)	・一軸拘束試験による断面修復用モルタルの収縮ひび割れ特性評価
黒田孝春	黒田精工(株)	・鋼板の焼入れに関する研究
黒田孝春	(株)ケーアイテクノ	・全自動土嚢製造機に関する研究
大藤晃義	木更津市	・介護予防の身体に及ぼす効果
鈴木聡	ナブソン株式会社	・PICマイコンを用いたシーケンス制御
佐藤恒明	長岡技術科学大学	・房総地域の耐候性鋼を使用した橋梁の現況調査
高橋秀雄	ブリジストン(株)	・燃りコードの強度に関する研究
上村繁樹	寿工業(株)	・下向流スポンジ懸垂型(DHS)リアクターによるふん便性大腸菌群の除去能力に関する研究
林田和宏	石油産業活性化センター(財)	・GTL灯油の燃焼特性の解析

(出典：JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

共同研究における「技術・製品等の創出・改善」，  
「特許等の出願」，「特許等の取得」に関する実績

実施年度	教員名	企業名	項目	概要
2001	黒川章二	計測リサーチコンサルタント(株)	技術開発	EMセンサによる各種鋼材の応力計測についての研究
2002	高橋邦夫 福地健一	新菱冷熱(株)	特許取得	植物の育成診断方法(特3346373号)
2002	高橋秀雄 石井孝一,他	君津マイカーセンター(有)	特許出願	自動車のウィンドウガラスと車体部との接合部の近くを分離する技術
2002	上村繁樹	石川島播磨工業(株)	特許出願	メタン発酵用微生物担体
2002	上村繁樹	大成建設(株)	技術改善	畜産廃棄物用メタン発酵槽における殺菌技術の評価と改善
2002	黒川章二	計測リサーチコンサルタント(株)	技術開発	EMセンサによるプレストレス力の計測及びPC梁緊張材の応力モニタリングについての研究
2003	石出忠輝	インテックリサーチ(有)	技術 アドバイス	「磁気処理システムを応用した、貯水池、湖沼、ダム等における水質浄化システムの研究開発」：流れの可視化手法について、技術的なアドバイスをを行った。
2003	石出忠輝	さつき製作所	技術検証	「小型風車の開発」：企業より提出された風車設計図面における空力的な検証を担当した。
2003	石川雅之 鈴木聡 星野真紀	株式会社カケンジェネックス	技術開発	液中水晶発振回路の安定化
2003	黒川章二	計測リサーチコンサルタント(株)	技術開発	光ファイバーを用いた断面修復済みRC梁底面の引張変位計測に関する研究
2003	黒川章二	東電工業(株)	技術開発	既コンクリート下地面の処理方法、および補修材の収縮特性に着目した断面修復工法の補修効果に関する
2004	石川雅之 鈴木聡 星野真紀	株式会社カケンジェネックス	技術開発	水晶振動子液中発振の安定化
2004	鈴木聡 石川雅之 星野真紀	株式会社カケンジェネックス	技術開発	マルチチャンネル高感度ポテンシostatの開発
2004	高橋邦夫 福地健一 岡本保 大澤寛	国際化工(株)	製品開発	サンマ用LED集魚灯の開発
2004	岡本保	(株)島津製作所	技術開発	放射線検出用CdZnTe膜の膜質向上
2004	黒川章二 青木優介	東電工業(株)	技術開発	腐食鉄筋を有する断面修復梁の耐久性および補修材料の若材齢クリープに関する研究
2005	大藤晃義	スマートセンサーテクノロジー(有)	技術開発	歩行動作解析装置の実用化、応用化へむけての研究
2005	鈴木聡 石川雅之 星野真紀	カケンジェネックス(株)	技術開発	高感度ポテンシostat性能改善の研究
2005	鈴木聡	ナブソン(株)	技術開発	PIC CPUの部品化
2005	高橋邦夫 福地健一 岡本保 大澤寛	国際化工(株)	製品開発	サンマ用LED集魚灯の開発
2005	小田功	JFEメカニカル(株)千葉事業所	技術開発	圧延材表面の微小な凹凸模様を光を用いて非接触で測定する技術の開発
2005	岡本保	(株)島津製作所	技術開発	放射線検出用CdZnTe膜の膜質向上
2005	高橋邦夫 岡本保	千葉県水産総合研究センター	技術開発	レーザー誘起蛍光法を用いた海苔の生育診断
2005	黒川章二 青木優介	東電工業(株)	技術開発	塩害劣化環境に位置するRC建造物の維持管理手法の構築に関する研究

(出典：JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)

資料A - 1 - - 10 ( 1 / 2 )

共同研究における「論文発表」, 「学会発表」,  
「成果報告」, 「各種受賞」に関する実績

実施年度	教職員名	項目	外部機関名	概要
2001	大藤晃義	学会賞受賞	マニュアルメ ディスン研究	日本カイロプラクティック徒手医学会優秀論文賞受賞
2001	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	磁歪センサによる各種鋼材の応力計測、プレスとレストコンクリート技術協会 第11回シンポジウム論文集(2001.11)、pp.101~106.
2002	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	EMセンサによるプレストレス力の計測、土木学会第57回年次学術講演会(2002.10)CS6-15,pp.284~285
2002	黒川章二	学術論文	計測リサーチ コンサルタント	EMセンサを用いたPC鋼材の引張力モニタリング実験、土木学会応用力学論文集(2002.8)、Vol.5、pp.817~826.
2002	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	LONG TERM STRESS MONITARING USING ELASTO-MAGNETIC SENSOR、fib 2002 Congresss W-97、2002.10
2002	上村繁樹	学術論文	石川島播磨	有機性固形廃棄物のアンモニア阻害の抑制に関する研究、工業用水、第526号、p8-15
2003	大藤晃義	学会賞受賞	マニュアルメ ディスン研究	日本カイロプラクティック徒手医学会優秀論文賞受賞
2003	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	Monitoring based maintenance by utilizing actual-stress sensory technology、1st Conference on Structural Health Monitoring Infrastructure、November、13-15、2003、Tokyo、Japan.
2003	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	Monitoring based maintenance by utilizing actual-stress sensory technology、9th East-Asia-Pacific Conference on Structural Engineering and Construction、December 16-18、2003、Bali、Indonesia.
2003	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	東電工業	高性能吹き付けモルタルにより断面修復した鉄筋コンクリートの疲労試験、土木学会第58回年次学術講演会概要集、2003.9.
2003	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	東電工業	高性能吹き付けモルタルにより断面修復した鉄筋コンクリート梁の載荷実験、土木学会第58回年次学術講演会概要集、2003.9.
2003	黒川章二 嶋野慶次	学術論文	計測リサーチ コンサルタント	光ファイバーを用いた断面修復済み鉄筋コンクリート梁底面の引張変位計測、土木学会応用力学論文集6(2003)1017-1024.
2003	黒川章二 嶋野慶次	学術論文	東電工業	高性能吹き付けモルタルを用いた断面修復RC梁の疲労性状、コンクリート工学年次論文集、26[1](2004)1785-1790.
2004	高橋邦夫 福地健一 岡本保 大澤寛	研究成果 報告書	国際化工(株)	さんま棒受網用集魚灯光源の技術開発、平成16年度水産業構造改革加速化技術開発事業(水産業一般型)報告書、H17.3、社団法人海洋水産システム協会、P1-40
2004	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	CONCRETE SUTRUCTURE HELTH MONITORING SYSTEM BY UTILIZING ACTUAL-STRESS-MEASUREMENT-BASED、4th International Conference under Service Conditions of Enviroiment and Loading、June 27-July 1、2004.
2004	青木優介 黒川章二 嶋野慶次	学術論文	計測リサーチ コンサルタント	鉄筋の実応力測定におけるEMセンサーの適応性、コンクリート工学年次論文集、26[1](2004)1983-1988.
2004	青木優介 黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	EMセンサーを用いた鉄筋応力測定における応力算出式の適用性、土木学会第58回年次学術講演会、2004年9月.
2004	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	PC梁における鉄筋の実応力計測によるプレストレスの推定について、プレスとレストコンクリート技術協会シンポジウム論文集、(13)(2004)291-296.

(出典：JABEE 認定・認証評価推進委員会資料)



資料A - 1 - - 10 ( 2 / 2 )

共同研究における「論文発表」, 「学会発表」,  
「成果報告」, 「各種受賞」に関する実績

実施年度	教職員名	項目	外部機関名	概要
2004	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	Global Concrete Structure Monitoring by utilizing Fiber Optic Sensor, 2nd International Conference on Bridge Maintenance, Safety and Management, October 19-22, 2004, Kyoto, Japan.
2004	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	東電工業(株)	ウォータージェットで界面処理した断面修復RC梁の疲労試験, 第31回土木学会関東支部技術研究発表会, 2004.3.
2004	黒川章二 嶋野慶次	学会発表	計測リサーチ コンサルタント	「光ファイバーセンサによるRC梁の変形モニタリング実験」; 第31回土木学会関東支部技術研究発表会, 2004.3.
2004	黒川章二 嶋野慶次	学術論文	東電工業(株)	高性能吹き付けモルタルを用いた断面修復RC梁の疲労性状, コンクリート工学年次論文集, 26[1](2004) 1785-1790.
2004	上村繁樹	学術論文	大成建設(株)	畜産廃棄物系バイオガスプラントにおける指標微生物の動向, 用水と廃水, 第46巻第5号, p43-49
2004	高橋邦夫 福地健一	学術論文	新菱冷熱(株)	弱光などのストレスを受ける屋内樹木のレーザー誘起蛍光誘導期現象の新たな解析法, 農業気象, 第60巻, 第2号, 123-131頁
2005	鈴木久夫, 相川正美, 林田和宏	学会発表	半兵衛炭の会	土窯で作った炭の性質に関する研究, 日本福祉工学会第8回学術講演会, 2005年11月
2005	岡本保他	学会発表	(株)島津製作所	近接昇華法によるCdZnTe多結晶膜の作製と評価, 2006年春季 第53回応用物理学関係連合講演会, 22p-ZH-14, 2006年3月(東京)
2005	岡本保他	学会発表	(株)島津製作所	フォトルミネッセンス法によるCdZnTe多結晶膜の評価, 2006年春季 第53回応用物理学関係連合講演会, 22p-ZH-15, 2006年3月(東京)
2005	岡本保 高橋邦夫他	学会発表	千葉県水産総合 研究センター	LIF法を用いた海苔のストレス診断, 第6回レーザー学会東京支部研究会, P-30, 2006年3月(東京)
2005	岡本保 高橋邦夫他	学会発表	千葉県水産総合 研究センター	レーザー誘起蛍光法による海苔の生育診断 平成18年度日本水産学会大会, 669, 2006年3月(高知)
2005	岡本保 高橋邦夫 福地健一 大澤寛他	学会発表	国際化工(株) 朝日エテック(株)	集魚灯評価用照度計に関する基礎研究, 平成18年度日本水産学会大会, 1301, 2006年3月(高知)
2005	黒川章二 嶋野慶次	学術論文	計測リサーチ コンサルタント	Monitoring based maintenance stress sensory technology, INSTITUTE OF PHYSICS PUBLISHING Smart Mater. Struct.14(2005)S68-S78
2005	青木優介 黒川章二 嶋野慶次	学会発表	東電工業(株)	リング型拘束試験で測定した繊維補強モルタルの引張有効弾性係, 第32回土木学会関東支部技術研究発表会, 2005.3.
2005	青木優介 黒川章二 嶋野慶次	学術論文	東電工業(株)	拘束形態の異なる断面補修用モルタルの収縮ひび割れ特性, コンクリート工学年次論文集, 27 [1] (2005).
2005	鬼塚信弘 金井太一 佐藤恒明	学会発表	関東天然瓦斯開 発(株)	「天然ガス採取に伴う深層土の物理的・化学的性質」土木学会第60回年次学術講演会講演概要集, pp.669-670, 2005年9月
2005	青木優介 黒川章二 嶋野慶次	学会発表	東電工業(株)	硝酸銀噴霧法におけるコンクリート変色境界の塩化物イオン濃度, 第33回土木学会関東支部技術研究発表講演概要集, CD-ROM, 2006.3
2005	青木優介 黒川章二 嶋野慶次	学会発表	東電工業(株)	モルタルの収縮ひび割れ特性におよぼす部材寸法の影響, 第23回土木学会関東支部新潟会研究調査発表会論文集, pp.268-269, 2005.11

( 出典 : JABEE 認定・認証評価推進委員会資料 )

木更津工業高等専門学校技術振興交流会会員リスト

技術振興交流会企業会員リスト

2006.4.1現在

番号	会 員 名	番号	会 員 名
1	IDE	41	(有)丸和建材社
2	JFEメカニカル(株)千葉事業所	42	(有)三ツ矢精密
3	アムテック(有)	43	(有)ミタ工業
4	アロマ工芸(株)	44	(有)君津マイカーセンター
5	(株)アスク	45	梶原塗装(株)千葉支店
6	(株)エーアイエス	46	(株)市原建設
7	(株)ケーアイテクノ	47	(有)マイホームタカハシ
8	(株)さわや	48	共栄海運(株)
9	(株)ジーテック	49	君津信用組合
10	(株)写楽館	50	(株)千葉銀行法人部
11	(株)総洋リサイクル	51	(株)菱商事
12	(株)竜場工務店	52	(株)千葉興業銀行(営業統括部ナレッジセンター)
13	(株)チヨダサイエンス	53	平野コンクリート工業(株)
14	(株)長野建設	54	千葉県コンクリート製品協同組合
15	(株)不二越製作所	55	(有)キャドサポート・ホシノ
16	関東建設(株)	56	ロッキー工業(株)
17	JFEテクノロジーサーチ(株)	57	ワッケン建設(有)
18	木更津木材(株)	58	ワタナベ印刷(株)
19	共和電気工事(株)	59	医療法人社団鶴会ケアセンターきさらづ
20	クラリオンシステムハウス(株)	60	M&E技術
21	国際化工(株)	61	(株)ヤマイチ企業
22	寿住宅設備機器(株)	62	(株)ホテル八宝苑
23	駒井鉄工(株)	63	ナブソン(株)
24	社会福祉法人慈心会 木更津南清苑	64	シャープシステムプロダクト(株)
25	新葉産建(株)	65	(株)マンザキ
26	綜和熟学工業(株)	66	共栄電設(株)
27	太陽工業(株)	67	(株)鈴木商館君津営業所
28	千葉オイレッシュ(株)	68	(株)日鉄エレックス君津支店
29	千葉県教材(株)	69	六幸電気工業(株)
30	つかれず普及会南関東本部	70	日泉化学(株)千葉工場
31	愛情果(有)	71	(有)中塚クリーンセンター
32	日鉄ハード(株)	72	(株)イノセ
33	春川鉄工(株)	73	(株)椿コンサルタント
34	富洋観光開発(株)	74	千葉共栄建材(株)
35	(有)インテックリサーチ	75	(株)正木設計
36	(有)エヌケーホーム	76	関東自動車工業(株)
37	(有)クリーン21	77	TMCシステム(株)
38	(有)小林鉄工所	78	(有)サニー工芸
39	(有)田井組土建	79	(有)ワイエヌエスエラストック
40	(有)本田水設工業	80	昭和電業社(株)

技術振興交流会 特別会員リスト

2006.4.1現在

番号	会 員 名	番号	会 員 名
1	木更津市立南清小学校	8	富津市富津商工会
2	木更津市立木更津第一中学校	9	富津市大佐和商工会
3	木更津市立太田中学校	10	富津市天羽商工会
4	君津市立周西中学校	11	袖ヶ浦市商工会
5	君津市立君津中学校	12	木更津市富来田商工会
6	木更津商工会議所	13	松村志真秀(名誉教授)
7	君津商工会議所	14	千葉県水産総合研究センター

(出典：庶務課資料)

資料A - 1 - - 12 ( 1 / 2 )

## 2004 年度技術振興交流会分科会実施状況

	分 科 会 名	実 施 年 月 日
1	環境管理技術	第1回2004年5月13日(木), 第2回2004年8月14日(水) 第3回2005年3月23日(水)
2	医療・福祉機器	第1回2004年5月18日(火), 第2回2004年9月28日(火) 特別講演会2005年1月18日(火)
3	教材開発	第1回2004年5月17日(月), 第2回2004年7月15日(水) 第3回2004年9月16日(木), 第4回2004年11月18日(木) 第5回2005年2月3日(木)
4	光応用技術	第1回2004年5月20日(木), 第2回2004年9月7日(火) 第3回2004年11月26日(金)
5	社会基盤の メンテナンス	第1回2004年5月25日(火), 第2回2005年1月28日(金)
6	ロボット・自動化	第1回2004年5月19日(水), 第2回2004年7月28日(水)
7	通信・アンテナ	第1回2004年5月26日(水), 第2回2004年9月15日(水) 第3回2004年12月22日(水), 第4回2005年1月19日(水)
8	画像情報	第1回2004年5月24日(月), 第2回2004年10月22日(金) 第3回2004年12月17日(金), 特別講演会2005年1月18日 (火)
9	機械・制御系	第1回2004年5月11日(火), 第2回2004年11月24日(水)
10	電子・電気系	第1回2004年5月27日(水), 第2回2004年9月22日(水) 第3回2004年11月30日(水)
11	情報系	第1回2004年5月21日(金), 第2回2004年7月14日(金) 第3回2004年9月15日(水), 第4回2004年11月24日(水) 第5回2005年2月2日(水), 特別講演会2005年3月4日(火)
12	環境・土木系	第1回2004年5月14日(金), 第2回2004年7月9日(金) 第3回2004年11月5日(金)
13	自動車リサイクル技術	第1回2004年5月12日(水), 第2回2004年7月7日(水) 第3回2004年8月19日(木), 第4回2004年10月26日(火) 第5回2005年3月3日(木)
14	異業種融合	第1回2004年5月28日(金), 第2回2004年6月24日(木) 第3回2004年7月27日(火), 第4回2004年9月28日(火) 第5回2004年10月26日(火), 第6回2004年11月24日(水) 第7回2004年12月21日(火), 第8回2004年1月17日(火) 第9回2004年2月24日(木), 第10回2004年3月24日(木)

( 出典 : 平成 16 年度地域共同テクノセンター事業活動報告 )

資料A - 1 - - 12 ( 2 / 2 )

## 2005 年度技術振興交流会分科会実施状況

	分科会名	実施年月日
1	環境管理技術	第1回 2005年6月17日(金)講演会 第2回 2005年8月19日(金), 第3回 2005年11月25日(金) 第4回 2006年3月13日(月)講演会
2	医療・福祉機器	第1回 2005年9月26日(月), 第2回 2006年2月10日(金) 第3回 2006年2月22日(水)
3	教材開発	第1回 2005年5月13日(金), 第2回 2005年7月7日(水) 第3回 2005年10月21日(金), 第4回 2006年1月26日(木)
4	光応用技術	第1回 2005年6月10日(金), 第2回 2006年1月27日(金)
5	社会基盤の メンテナンス	第1回 2005年7月8日(金)
6	ロボット・自動化	第1回 2005年7月20日(水)
7	通信・アンテナ	第1回 2005年6月15日(水), 第2回 2005年9月14日(水) 第3回 2006年2月1日(水)
8	画像情報	第1回 2005年6月22日(水), 第2回 2005年12月9日(金) 第3回 2006年2月10日(金), 第4回 2006年3月31日(金)
9	機械・制御系	第1回 2005年5月18日(水)
10	電子・電気系	第1回 2005年10月18日(火) 第2回 2006年1月27日(金)講演会
11	情報系	第1回 2005年7月6日(水), 第2回 2005年9月7日(水)講演会 第3回 2005年11月9日(水), 第4回 2006年1月18日(水) 第5回 2006年3月8日(水)講演会
12	環境・土木系	第1回 2005年5月27日(金) 第2回 2005年10月7日(金) 第3回 2006年3月13日(月)講演会
13	自動車リサイクル技術	第1回 2005年11月29日(火)
14	異業種融合	第1回 2005年4月28日(木), 第2回 2005年5月26日(木) 第3回 2005年6月30日(木), 第4回 2005年7月28日(木) 第5回 2005年10月27日(木), 第6回 2005年11月24日(木) 第7回 2006年1月26日(木), 第8回 2006年2月23日(木) 第9回 2006年3月30日(木)

( 出典 : 平成 17 年度地域共同テクノセンター事業活動報告 )

第4回テクノフォーラム取材記事

(第3種郵便物認可)

毎日新聞

ちば ワイド

# サンマ漁にLED集魚灯

## 木更津高専と国際化工共同開発

木更津工業高等専門学校（木更津市青見台東）と、発煙灯などを製造販売している国際化工（東京都千代田区飯田橋）が消費電力が従来の約20分の1で済むLED（発光ダイオード）使用の「サンマ漁集魚灯」の共同開発に成功した。14日、同校で行われた第4回テクノフォーラムで「サンマ漁集魚灯の研究開発」として発表された。【尻玉賢二】

## 電力20分の1で同じ漁獲量

同校は「高専の技術力を民間会社で生かしてもらおうための拠点」として、01年3月に「官・学・民」協力の「地域共同テクノセンター」を開設。企業との共同研究を進めている。「集魚灯」の研究は04、05年度に農水省から2300万円の補助を受けて実施。光応用計測が専門の高橋邦夫教授（68）をリーダーに高専チームと国際化工顧問の小林智さん（71）のチームが協力してきた。

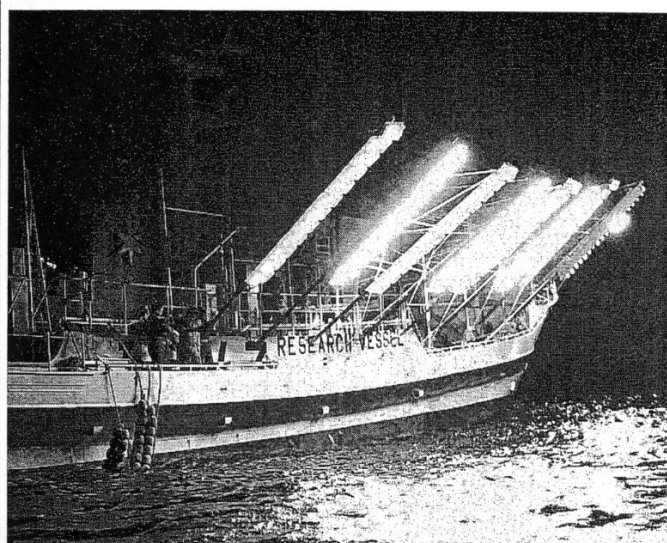
サンマ漁は発電用エンジンで発電し、白熱電球の集魚灯を照らして行う。明るい光に集まるサンマの習性を利用して、サンマを集めるのが特徴だ。

しかし、白熱電球集魚灯の場合、750～1000ワットの白熱電球を3000～6000個ほど使うため、消費電力は180～200キロワットにもなる。最近では、燃料の高騰に加え、豊漁による市場価格の急落から、漁業関係者の悩みの種だった。

そこで、国際化工と高橋教授のグループが協力。消費電力の少ないLEDからサンマが反応する色のLED

青森県八戸沖で3回試験操業をしたところ、LEDの場合、約20分の1の8・4キロワットの消費電力で、白熱電球と同じ漁獲量が確保できることが実証された。

小林さんは「まだLEDは高いが、一般照明や自動車ライトに使われるようになれば単価も安くなり、3年後ぐらいにはLED集魚灯がサンマ漁の主流になるでしょう。全国のサンマ船がLEDを使用すると8億円以上の燃料費が削減できると試算している。」



開発したLED集魚灯を使い八戸沖で試験操業する岡総丸—国際化工提供

地上デジタル放送 来月1日から開始 千葉テレビ

（出典：2006年3月16日（木）毎日新聞）

## (分析結果とその根拠理由)

直近5年間に新たに博士号を取得した現職教員が11名おり、理科系教員の博士号取得率が64.0%に達した。直近5年間の論文発表件数は255件、学会発表件数は285件、各種受賞は13件であったこと等から、着実に組織としての研究力が向上していることが分かる。

2004年3月に発足した技術振興交流会には、多くの地域企業、近隣学校が組織会員となって参加しており、14の分科会において発足2年間で述べ98回の会議及び特別講演会が開催された。また、一般に開かれたテクノフォーラムも発足2年間で4回開催され延べ423名の参加者を集める等の成果を上げている。それらの活動結果として、共同研究、受託研究等の件数も年々増加しており、研究成果が学術論文、学会発表、研究成果報告書等によって着実に公表されている。

以上のことから、研究活動を通して本校の社会的存在意義を十分にアピールすると同時に、教育研究力を確実に地域に還元することができており、目的に沿った活動の成果が十分に上げられていると評価できる。

観点1 - : 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

## (観点到に係る状況)

研究活動等の実施状況や問題点の把握は、テクノセンター運営委員会が行っている。資料A - 1 - 2 (地域共同テクノセンター組織図) に示した通り、テクノセンター運営に関する事務は、本校庶務課が担当しており、共同研究、受託研究、技術相談、奨学寄附金受入れ等の窓口となっている。テクノセンター運営委員会はセンター長の他に全学科学系より委員が選出されており、全教員の意見を吸い上げる体制が整っている(資料A - 1 - 1)。同委員会は2004年度に7回、2005年度に6回開催され、研究活動の計画及び点検・改善等が行われた(資料A - 1 - 2)。

地域交流の拠点となる技術振興交流会は、資料A - 1 - 16 (木更津高専技術振興交流会組織図) に示した通り、テクノセンター長及び3名の副センター長が理事として、庶務課長が幹事として本校より参加するが、会長、副会長、監事等の役員のほとんどは地域企業、商工会議所等の公共機関の人に依頼しており(資料A - 1 - 3)、本校の研究活動に対して、外部の意見が強く反映される形になっている。技術振興交流会役員会は年2回行われており、事業内容の問題点抽出や分科会統廃合等の具体的改善案が審議されている(資料A - 1 - 4)。

テクノセンターの主な事業内容は、事業報告書(2005年度発行部数:1000部)で毎年公表しており(資料A - 1 - 5)、更に詳細な活動内容を事業活動報告(資料A - 1 - 6)としてまとめ、その中で自己点検も行っている。事業報告書及び事業活動報告は、テクノセンターウェブページでも公開している。また、技術振興交流会の活動に関しても、年度ごとに活動報告を行っている(資料A - 1 - 7)。その中で各分科会の活動内容の報告が義務付けられており、会員は、自分が所属していない分科会の具体的な研究活動も把握することができるシステムとなっている。各分科会の委員長は本校の教員が当り、副委員長は外部会員に依頼しており、分科会活動の問題点が客観的に抽出されやすい仕組みとなっている(資料A - 1 - 8)。更に、問題が発生した場合は、分科会委員長会議で吸い上げるシステムとなっている(資料A - 1 - 9)。

その他に、2004年9月に「地域共同テクノセンターの現状」に関する、外部評価(資料A - 1 - 10)を受け、その評価結果をもとに、様々な改善を行っている(資料A - 1 - 11)。例えば、

「更なるPRが必要である」という指摘に対して、資料A - 1 - - 9（技術振興交流会分科会委員長会議議事要旨）に示したように、教員による企業訪問や技術振興交流会ホームページ立上げ等の具体的な改善を行った。

資料A - 1 - - 1

## 地域共同テクノセンター運営委員会委員と事務部担当者

センター長	小平眞次（電気電子工学科）	
副センター長	大澤 寛（電気電子工学科）	鈴木 聡（電子制御工学科）
	佐藤恒明（環境都市工学科）	
センター委員	五十嵐譲介（人文学系）	高橋邦夫（基礎学系）
	板垣貴喜（機械工学科）	大澤 寛（電気電子工学科）
	鈴木 聡（電子制御工学科）	東 雄二（情報工学科）
	高橋克夫（環境都市工学科）	五島正己（事務部長）
生涯学習担当	田村和士（基礎学系）	
事務部	原 稔継 庶務課長	斉藤 正 庶務課専門職員
	大坪竹雄 庶務係長	仲川 強 庶務主任

（出典：平成 17 年度地域共同テクノセンター事業活動報告）

## 第6回 地域共同テクノセンター運営委員会議事要旨

1. 日 時 平成18年2月27日(火) 17:00～18:30
2. 場 所 第2会議室
3. 出席者 小平(委員長)、大澤、鈴木聡、佐藤、板垣、東、高橋克、五十嵐  
(欠席者:田村,高橋邦)

### 4. 議 事

#### 【議 題】

#### 1. 平成18年度地域共同テクノセンター事業計画(案)について

テクノセンター長から事業計画14件についての説明があった。

本件は学内での審議に提出するものであるから、学内に与えられた予算を取り合うことになるので、もっと現実的な金額に修正してはどうか、との意見が出たが、本件のような計画段階での予算申請ではこのような額になっても仕方がないとの意見が多く、このまま了承された。

特別教育研究経費に関する、連携融合事業経費について、センター長から説明があった。

経費の申請主旨からして、環境の鬼塚先生の「環境・人にやさしい地盤系舗装の計測解析システム」を申請することに決まった。

#### 【連絡報告】

#### 1. 第4回テクノフォーラムについて

鈴木委員から講演時間の変更等について説明があった。

(詳細は技術振興交流会のウェブページに)

センターニュースの締め切り3/28。各委員は原稿の提出を再度依頼。

見学の計画は東委員。案内は、東・板垣委員で担当。前回回れなかった栗本先生の実験室を最初にとのこと。技術相談は佐藤委員が担当

#### 2. 東葛テクノプラザにおける技術相談担当者について

資料にて確認した

#### 3. 平成18年度公開講座実施計画について

項目、担当等の確認後、各講座の予算が決定し次第、再検討することになった。

#### 【その他】

木更津商工会議所の青年会のイベントについて

(出典:庶務課資料)



資料A - 1 - - 3

## 木更津工業高等専門学校技術振興交流会 役員・顧問所属

平成18年4月1日

役職名	所 属	備 考
顧 問	木更津市長	
"	木更津商工会議所会頭	
"	君津商工会議所会頭	
"	君津地区商工会連絡協議会会長	
"	木更津工業高等専門学校長	
会 長	(株)長野建設代表取締役社長	
副 会 長	(株)アスク代表取締役会長	
"	春川鉄工(株)代表取締役	
"	富津オートサービス代表	
"	(有)三ツ矢精密	
理 事	(有)本田水設工業代表取締役	
"	伊藤土建代表取締役	
"	(有)丸和建材社代表取締役	
"	寿住宅設備機器(株)代表取締役	
"	富洋観光開発(株)代表取締役	
"	木更津商工会議所専務理事	
"	木更津高専地域共同テクノセンター長	事務局長兼務
"	" 副テクノセンター長	広報担当
"	" 副テクノセンター長	フォーラム担当
"	" 副テクノセンター長	分科会担当
監 事	(株)さわや代表取締役社長	
"	千葉オイレッシュ(株)代表取締役	
幹 事	木更津商工会議所経営指導員	
"	君津商工会議所中小企業相談所長	
"	富津市大佐和商工会主任経営指導員	
"	袖ヶ浦市商工会経営指導員	
"	木更津高専庶務課長	

(出典：庶務課資料)

## 木更津工業高等専門学校技術振興交流会役員会議事要旨

1. 日 時 平成18年2月10日(金) 15:30～16:50
2. 場 所 木更津工業高等専門学校第2会議室
3. 出席者 13名
4. 欠席者 9名
5. 議 事

原幹事の司会で、

- (1) 会長及び小平理事(事務局長)のあいさつ、
- (2) 配付資料の確認後、

長野会長が議長を務め、次のとおり審議が行われた。

(1) 新年度の交流会活動について

議長から、交流会も発足後2年となり、3年目となる18年度に向けて、

会員の拡大策

事業内容

役員の変更

等、交流会活動活性化について意見・提言をお願いしたいとの発議後、各役員から次のような意見等があった。

会員の拡大策について

- ・ 南総地区(館山・鴨川等)の会員が少ない。商工会議所、商工会等を通じて活発な案内を行う必要がある。
- ・ 千葉大学では「千葉大学支援会」が発足し、4月から学内TLOを立ち上げる予定とのこと。木更津高専も将来のTLO設立に向け地道に会員増を図って行く。
- ・ 新会社(TLO)の設立を目指して行けばよいのではないか。小さくスタートして徐々に大きくすればよい。
- ・ 地域とのコーディネートをする者が必要である。(OB等学外者)

事業内容について

- ・ 分科会については、統廃合も視野に入れて検討を行っていく。
- ・ 高専の設備等を積極的に紹介し、会員に利用いただく。
- ・ 焦点ぼけの分科会が見受けられる。テーマごとのWG、研究会等の設置が必要。
- ・ 木更津市等近隣4市では、産業祭等を行っている。そのような校外活動に学生等を積極的に参加させていただきたい。

役員の変更について

- ・ 役員については、交流会の基礎が固まっていないこともあり、可能な限り継続でお願いする。

(2) その他

経済産業省による雇用促進事業について

大澤理事から、千葉県産業振興センターが経済産業省の事業に応募し、

2005年度に調査費が付き、木更津高専も協力している。内容は、2007年度に向けて団塊世代の退職により、技術の継承が難しくなっているため、若手技術者の再教育を高専が担当することになっている。そのためのアンケート調査を行ったが、交流会会員企業の者をお願いした。

(事後承諾となった)

2006年度に申請して、通れば本校において技術教育を行うことになるので今後とも協力をお願いしたいとの依頼があった。

交流会ホームページについて

大澤理事から、交流会のホームページを立ち上げた。会員企業の積極的な登録をお願いしたい旨の依頼とホームページの内容の説明が行われた。

第4回テクノフォーラムについて

鈴木理事から、フォーラムの内容の説明があった。

司会から、本日の案件に対する意見を今後の交流会活動に活かしていく旨の発言があった。

以上

(出典：庶務課資料)

## 地域共同テクノセンター事業報告書



2001年度 事業報告 (画像をクリックすると大きな画像開きます)



2002年度 事業報告 (画像をクリックすると大きな画像開きます)



2003年度 事業報告 (画像をクリックすると大きな画像開きます)



2004年度 事業報告 (画像をクリックすると大きな画像開きます)



(出典 : <http://www.kisarazu.ac.jp/techno/report2002.htm> ,  
地域共同テクノセンターウェブページより)

## 地域共同テクノセンター事業活動報告目次

平成 18 年 3 月 31 日

平成 17 年度

# 地域共同テクノセンター事業活動報告

### 報告項目

平成 17 年度活動の結果と点検評価

#### 1. 新たな活動

- 1) 2005サイエンススクエア
- 2) 木更津市アーカイブ画像撮影
- 3) 理数大好きモデル地域事業
- 4) 電源地域における雇用推進対策調査事業
- 5) 技術振興交流会ホームページの立ち上げ
- 6) 電子顕微鏡室設備公開の準備

#### 2. 継承した事業活動

- 1) 木更津高専技術振興交流会への協力事業
- 2) 技術相談事業
- 3) 研究・試験事業
- 4) 研究・技術成果公開・出展に関する事業
- 5) 生涯学習事業
- 6) 講演講師派遣事業
- 7) 広報事業
- 8) 審議委員等の派遣事業
- 9) 交流事業
- 10) その他

#### 3. 実現したい活動等

- 1) 事業を推進・持続できるシステムの構築
- 2) 運営資金を確保できる事業の検討

運営委員会の実績

運営委員会委員と事務部担当

(出典：平成 17 年度地域共同テクノセンター事業活動報告，現地閲覧資料 28)

木更津高専技術振興交流会 2004 年度報告

# 木更津高専 技術振興交流会

## 2004年度報告



設立総会（2004年3月9日火曜日）

1. 巻頭の言葉	.....	1
2. 技術振興交流会の設立趣旨とシステム	.....	2
3. 木更津高専技術振興交流会設立総会	.....	3
4. テクノフォーラムの報告	.....	4
5. 分科会の概要	.....	5
6. 分科会特別講演会の報告	.....	8
7. 各分科会の報告	.....	11
8. 2004年度会員リスト	.....	33
9. 2004年度役員リスト	.....	34

（出典：木更津高専技術振興交流会 2004 年度報告，現地閲覧資料 29）

木更津高専技術振興交流会 2004 年度報告 各分科会の報告

## 各分科会の報告

### 異業種融合分科会

委員長：小平 眞次

副委員長：学外委員

副委員長：石出 忠輝

#### 異業種融合分科会第1回 報告

開催日時：2004年 5月28日（金）18:00～20:00

開催場所：木更津高専 第1会議室

参加人数：27名

概要：

- 分科会概要の説明と、副委員長の選出（副委員長の選出は委員長に一任）
- 第2会議室にて懇親会

参加者は学外会員 12名、学内会員 10名であり、活発な意見交換が行われた。

#### 異業種融合分科会第2回 報告

開催日時：2004年 6月24日（木）18:00～20:00

開催場所：木更津高専 第1会議室

参加人数：19名

概要：

- 技術相談事例とその対応について

委員長より、「おが粉の再利用の助言」についての技術相談内容の説明があり、企業の開発と高専の技術相談・委託試験・共同研究・委託研究との関係についてのガイドラインが示された。

- 技術紹介：実現化の方法論について

委員長より、実現化の方法論についてパワーポイントを用いながら、研究開発のキーポイントについての講演がなされた。研究開発体制をどのように構築していくかについての斬新な発想が紹介された。

- 懇親会

第1会議室にて懇親会を行った。参加者は学外会員 12名、学内会員 7名であった。なお、長野会長よりアクアライン関係の報告もあり、有意義な意見交換が行われた。

（出典：木更津高専技術振興交流会 2004 年度報告）

## 技術振興交流会分科会委員長会議議事要旨（第1回）

1. 日時 平成17年6月9日（木）15:20～16:00  
 2. 場所 第2会議室  
 3. 出席者 小平、大澤、鈴木聡、佐藤、高橋克、高橋邦、石井、斉藤（栗本の代理）、天摩、高橋秀、（事務：斉藤）  
 4. 議事

## （1）平成17年度の交流会活動方針について

小平センター長から、5月18日に開催された技術振興交流会定期総会での決定事項について、次のとおり報告があった。

会則を一部改正し、本校教職員及び退職した教職員で希望する者を特別会員とすることを明記した。

平成17年度予算が承認され、分科会については、1分科会当り40,000円（14分科会）、共通経費として50,000円、合計で610,000円が使用できることとなった。なお、使用に際しては、立替払いを原則とし、領収書を事務局（斉藤）に提出すれば1週間程度で支払可能である。

平成17年度交流会事業計画書について、今年度は、例年実施している事業のほかに次の事業を新たに計画し実施する。

- ・技術講習会の開催 電子顕微鏡関係を整備し実施
- ・**木更津高専教員による会員企業訪問** 分科会単位及び企業取材等
- ・**技術振興交流会ホームページ立ち上げ** 現在内容について検討中  
大澤先生が中心で作成する

## （2）分科会の開催日程について

小平センター長から、平成17年度の分科会の開催日程を早めに計画し、事務局（斉藤）及び17年度の分科会担当理事の佐藤副センター長へ連絡すること。また、分科会開催後、速やかに議事要旨を作成し、佐藤及び事務局へ提出するよう依頼があった。（年度報告を作成する資料とするため）。なお、佐藤副センター長から、17年度開催計画については、6月15日（水）までに連絡するよう依頼があった。

以上

（出典：庶務課資料）

## 外部評価（地域共同テクノセンターの現状）

### 目 次

1.	木更津工業高等専門学校外部評価実施要領	1
2.	平成16年度木更津工業高等専門学校外部評価委員名簿	2
3.	平成16年度木更津工業高等専門学校外部評価の実施方法及び項目	3
4.	木更津工業高等専門学校外部評価委員会等日程	4
5.	平成16年度木更津工業高等専門学校外部評価委員会日程表	5
6.	外部評価委員会委員に配布した資料一覧	6
7.	外部評価に際して	7
8.	外部評価委員の評価内容	
	一専攻科の現状	10
	一地域共同テクノセンターの現状	14
	一J A B E E認定申請に向けての現状	17
	一中期計画の策定	19
	一その他	21
9.	木更津工業高等専門学校外部評価書様式	24

#### 【地域共同テクノセンターの現状】

##### 1. センターの設置について

###### ○評価できる点

- ・目的を達成すべく業務を積極的に少ないスタッフで実行されていることは評価できる。
- ・センターの設置は、進むべき方向だと同感であり評価できる。
- ・学外への窓口をセンターに一本化し、地域社会と連携し発展しようとの努力が認められる。
- ・木更津という商業的色彩の強い地域において、センターの設置は工業系事業者には心強い味方である。
- ・外部との窓口の一本化により、技術相談やセンター・学科等の設備利用が一元化され、地域との連携がこれまで以上に促進されることが期待できる。

###### ○問題点

- ・P R活動を積極的にされたとのことであるが、まだまだ広く知られていないのは否めない。更なるP Rが必要である。
- ・施設・設備は十分であるのか、今後の検討が必要である。
- ・今年3月に発足した、技術振興交流会との役割分担と協力の方法を更に検討すべきである。

###### ○その他の提言

- ・古い設備もあり、老朽化による故障が頻繁に起きているため、更新のための予算要求を行っているとのこと。早く承認されることが望まれる。
- ・地域連携の発展は個々の先生方の努力だけでは支えきれない。高専全体としての取り組みが重要である。

##### 2. センターの活動について

###### ○評価できる点

- ・P R不足を補うため広報・交流活動の拡大事業を積極的にされたこと。中学校出前授業は良い試みであり評価できる。
- ・活発に活動していると見受けます。やがて、成果に結びつくと思われる。
- ・民間企業との共同研究において徐々に成果がでてきている。
- ・相談者に対するセンターの対応が非常に真剣である。
- ・地域の小・中学校の立場から特に出前授業の実施は評価できる。
- ・地域産業界との交流、公開講座、受託試験等活発に活動している。

（出典：外部評価報告書平成16年11月）



## 外部評価に対する対応を示す資料

平成 16 年度 第 4 回地域共同テクノセンター運営委員会

日 時 平成 16 年 10 月 19 日 (火) 15:20~17:00

場 所 第 1 会議室

欠 席 田村, 石井, 原, 斉藤, 大坪

## 【議 題】

## 1. 地域共同テクノセンター事業役割分担について (案)・・・資料 1

特に, 技術振興会々報誌とテクノニュースのあり方・必要性について様々な議論があり, 再度検討することとなった。また, 各担当について一部決定 (資料に記載) したが, 残りについては責任者が人選し庶務係に連絡, 次回の委員会で報告することとなった。

## 【連絡報告】

## 1. 駅前高専「テレワークセミナー」の実施について・・・資料 2

公開講座を含め, 来年度に向け P R の方法等再検討することとなった。

## 2. 生涯学習実施報告の依頼・・・資料 3

特になし。

## 3. 第 2 回全国高専テクノフォーラム参加報告・・・資料なし

鈴木副センター長より, 参加報告があった。

また, センター長より第 3 回については長岡高専が幹事校で 7 月 21 日に開催される予定である旨補足があった。

## 4. 地域共同テクノセンター前期活動報告・・・資料 4

出前授業について, 事業を拡大するにはそれなりの予算の確保が必要であるため, テクノセンター運営経費全体を今後見直すこととなった。

## 5. 特許申請について・・・資料なし

センター長より, 環境都市石田教授の発明届についての経過報告があった。

## 【その他】

## 1. 第 1 回テクノフォーラム新聞記事紹介・・・資料 5

特になし。

## 2. 技術相談調書の提出について (依頼)・・・資料なし

センター長より, 些細なことでも出来るだけ提出するよう周知依頼があった。

## 3. 共同研究・受託研究の促進について・・・資料なし

センター長より, 自己収入拡大のためにも積極的に受け入れを促進するよう依頼があった。

## 4. 外部評価について・・・資料なし

センター長より, 提出された意見書に基づき, 今後改善すべき点を再認識し改善していくよう依頼があった。

## 5. 異業種交流プラザ講演報告

高橋克夫委員より, 追加配布の資料により 10 月 14 日の講演報告があった。

( 出典 : 平成 16 年度 第 4 回地域共同テクノセンター運営委員会議事要旨 )

(分析結果とその根拠理由)

テクノセンターを運営規程に従って適切に運営し、研究活動等の実施状況や問題点を把握するために、テクノセンター運営委員会が組織されている。テクノセンター運営委員会は全学科学系より委員が選出されており、全教員の意見を吸い上げる体制が整っている。

テクノセンター運営委員会では、テクノセンター及び技術振興交流会における活動の実施状況について、定期的に活動報告を行っている。また、技術振興交流会役員や分科会副委員長を学外委員に依頼し、技術振興交流会役員会議や技術振興交流会分科会委員長会議を開催して、定期的に研究活動の点検を行っている。

以上の体制に加え、実際に外部評価による指摘に対しても迅速に対応し、改善を行った実績もある事から、研究活動の実施状況や問題点を把握し改善を図っていくための体制が適切に整備され機能していると評価できる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

外部との窓口を地域共同テクノセンターに一本化し、テクノセンター運営委員会を中心として積極的に地域との連携を図っている点。

技術振興交流会を発足し、実践的なテーマを設定して、一般会員と本校教員から構成される14の分科会を設け、設定したテーマのもとに相互交流と会員への情報提供を積極的に行い、一般に開かれたテクノフォーラムを年間2回開催し、学外会員による講演会、技術相談会等を開催することで、精力的にニーズの探索を行った結果、共同研究、受託研究等の件数が年々増加している点。

テクノセンターガイドブック、テクノセンターニュース、事業報告書の発行やウェブページにより、積極的にシーズの発信を行っている点。

(改善を要する点)

特に無い。

### (3) 選択的評価事項Aの自己評価の概要

本校では、教育研究力を地域産業界に還元し本校の社会的な存在意義を高めていくために、地域社会とのコミュニケーションを深め地域社会の要求を把握し、ニーズとシーズを見極めた研究を遂行するとともに、外部機関との共同研究を推進している。

本校設立当初より、地域企業との共同研究や受託研究は活発に行われていたが、2001年3月に木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンターを設立し、共同研究・受託研究・受託試験・奨学寄附金の受入れ、技術相談の実施、公開講座等の開講を組織的に行う体制を整え、その運営に当たってテクノセンター運営委員会を組織することで、本校と地域社会・企業等との結びつきの一層の推進を図った。また、地域社会と情報を交換し連携を深める場として、2004年3月に技術振興交流会を発足し、実践的なテーマを設定して、一般会員と本校教員から構成される14の分科会を設け、設定したテーマのもとに相互交流と会員への情報提供を積極的に行っている。また、一般に開かれたテクノフォーラムを年間2回開催し、学外会員による講演会、技術相談会等を開催することで、精力的にニーズの探索を行うと同時に、テクノセンターガイドブック及びテクノセンターニュースの発行やウェブページを用いて、積極的にシーズの発信も行っている。

直近5年間に新たに博士号を取得した現職教員が11名おり、理科系教員の博士号取得率が64.0%に達し、直近5年間の論文発表件数は255件、学会発表件数は285件、各種受賞は13件と組織としての研究力が向上している。技術振興交流会の分科会では、発足2年間で述べ98回の会議及び特別講演会を開催し、テクノフォーラムには発足2年間で延べ423名が参加しており、これらの活動を通して、本校の社会的存在意義を十分にアピールすると同時に、教育研究力を確実に地域に還元している。

テクノセンター運営委員会では、テクノセンター及び技術振興交流会における活動の実施状況について、定期的に活動報告を行っている。また、技術振興交流会役員や分科会副委員長を学外会員に依頼し、技術振興交流会役員会議や技術振興交流会分科会委員長会議を開催して、定期的に研究活動の点検を行っており、研究活動の実施状況や問題点を把握し改善を図っていくための体制が適切に整備され機能している。

以上のことから、本校の研究活動が目的に沿って適切に行われ、研究活動の成果が十分に上がっているものと評価できる。

### (4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が非常に優れている。

## 選択的評価事項 B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

### (1) 観点ごとの分析

観点 1 - : 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観念に係る状況)

本校では、一般社会人の生涯教育のサポート及び地域小中学生の学習意欲の向上を目的とした公開講座等の教育サービスを地域共同テクノセンター事業の一環として実施している(資料 B - 1 - - 1)、(資料 B - 1 - - 2)。

公開講座等を実施するに当たっては、公開講座(オープンセミナー)実施要領(資料 B - 1 - - 3)に従って、実施する前年度末に実施計画書(資料 B - 1 - - 4)を庶務係に提出し、テクノセンター運営委員会にて承認を得ることが必要である(資料 B - 1 - - 5)。

テクノセンター運営委員会で承認された公開講座等の内容(講座の名称及び概要、対象者、募集定員、受講料、開催日、受付期間、申込用紙)の一覧は、テクノセンターウェブページのイベント情報にて公開される(資料 B - 1 - - 6)。また、木更津市の広報「きさらづ」及び地域機関誌「房総ファミリア」に掲載を依頼し、広報を行っている(資料 B - 1 - - 7)、(資料 B - 1 - - 8)。

2005 年度に行われた公開講座等の講座名一覧(資料 B - 1 - - 9)を示す(2001 - 2004 年度実績は現地資料とする)。2004 年度までの公開講座は有料と無料のものが混在していたが、2005 年度からは、公開講座は原則として有料とし、無料のものをオープンセミナーと称することにした。また、木更津市との協働で木更津高専テレワークセミナーを JR 木更津駅前アインスビル内のテレワークセンターにて実施している。

過去 5 年間で公開講座等の開設講座数は 10 講座から 43 講座まで約 4 倍に増加し、それに伴って受講者数は、218 名から 421 名まで約 2 倍に増加している(資料 B - 1 - - 10)。講座の内容は資料 B - 1 - - 9 (2005 年度公開講座等の実績)に示した通り、本校の研究技術力を地域に還元すると同時に地域のニーズに対応して多岐に及んでいる。一般社会人を対象としたものとしては専門技術や資格取得に関する講座の他、パソコン入門講座、語学講座、スポーツ講座等広範囲を網羅しており、社会人の生涯学習をサポートするものとして適切な内容となっている。また、小中学生を対象としたものでは、パソコンの自作、橋作り、鋳造、レゴロボット等のものづくり体験講座のほか、パソコンリテラシー教室、科学実験教室、スポーツ教室、環境問題を扱う講座等多岐に及んでおり、小中学生の学習意欲の向上に寄与する内容となっている。また、講座終了時の受講者アンケートにおいて「今後開いて欲しい講座」の希望調査を行い、受講者のニーズを探っている(資料 B - 1 - - 11)。

上述した公開講座等の他に、文部科学省「科学技術・理科大好きプラン」サイエンス・パートナーシップ・プログラム研究者招聘講座及び近隣小中学校の要請に応じて積極的に出前授業に対して講師を派遣している(資料 B - 1 - - 12)。また、1997年より基礎学系の理科教員を中心として科学教室「青少年のためのおもしろサイエンス」を定期的で開催しており、現在に至るまで延べ1937名の小中学生を対象として飛行機、万華鏡、炭電池自動車等のものづくり教室や放射線科学、地球環境問題等テーマとした講演会を行った(資料 B - 1 - - 13)。また、2004年8月にかずさアカデミアホールで開催された「ものづくり夢フェスタ2004(日本高専学会主催、本校共催)」(資料 B - 1 - - 14)及び2005年8月に国立科学博物館で開催された「2005夏休みサイエンススクエア」(資料 B - 1 - - 15)においても、積極的に講師及びアシスタント学生を派遣し、ものづくり体験授業を実施し、地域小中学生に対して専門的な視点で科学技術に対する興味・関心を与え、理科の学習意欲向上に大

きく貢献している。

資料 B - 1 - - 1

木更津工業高等専門学校地域共同テクノセンター運営規程(抜粋)

平成 12 年 11 月 15 日 規則第 8 号

(業務)

第 3 条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 産業界との共同研究及び技術相談等研究交流に関すること。
- (2) 技術セミナー及び技術研修会に関すること。
- (3) 学内共同研究に関すること。
- (4) ものづくり教育の推進に関すること。
- (5) 公開講座に関すること。
- (6) 電子顕微鏡室の運営に関すること。
- (7) その他センターの推進に関する必要な事項。

(出典：木更津工業高等専門学校広報第 19 号)

地域共同テクノセンターウェブページ（活動の目的）

**MENU**  
 新着情報  
 活動目的  
 事業内容  
 ご相談の方法  
 施設紹介  
 教員紹介  
 活動報告  
 組織図  
 テクノセンター 規程  
 ラボの研究成果報告  
 木更津高専技術振興交流会  
 申請書類・報告書 書式

**Technology Collaboration**  
 高専の技術力をみなさんへ

共同研究  
 受託研究  
 技術相談  
 リフレッシュ教育  
 公開講座

地域共同テクノセンターは、共同研究・受託研究・受託試験・技術相談・生涯学習などを集約的にを行い、地域の方々と共に、地域の発展向上に努めるための拠点です

**活動目的**

▶▶ 地域共同テクノセンターは、地域の中小企業を始めとする産業界を対象とした技術相談、共同研究、技術者のリフレッシュ教育を集約的にを行い、地域産業の振興・活性化を助長し、地域の経済力向上に資することを目的とする。（テクノセンター運営規程第2条）

▶▶ 本校の教育研究力を地域に還元し社会的存在意義を高めるために以下の事業の実施を目標にする。（以下項目は、テクノセンター運営規程第3条から）

- 産業界との共同研究及び技術相談等研究交流に関すること
  - ニーズと学内シーズを見極めた研究を推進するため、地域社会とのコミュニケーションを深める
- 学内共同研究に関すること
  - 地域産業界との共同研究の推進
- ものづくり教育の推進に関すること
  - 出前授業などの推進
- 公開講座に関すること。
  - 公開講座、オープンセミナーなどの推進
- 技術セミナー及び技術研修会に関すること
- 電子顕微鏡室の運営に関すること
- その他センターの推進に関する必要な事項

学生の教育  
 高専の存在意義  
 研究 地域連携

（出典：http://www.kisarazu.ac.jp/techno/index.html，  
 地域共同テクノセンターウェブページの活動目的）

## 平成 17 年度公開講座（オープンセミナー）実施要領

1. 使用施設について
  - ・以前に作成された実施計画書を再度ご確認のうえ、各講座（セミナー）の責任者（以下「責任者」という。）において使用施設の予約・調整等を行ってください。
2. 受講申し込み受付について
  - ・庶務課庶務係において行います。（申込時に徴収すべき料金等の代行納付を含む。）
  - ・受付時には、受講希望者に対し講座（セミナー）の要項及び受付完了の確認通知文書を交付します。（この他、別途配布してほしい連絡文書等がありましたら受付開始日の 1 週間前までに仲川まで原稿をご提出願います。）
  - ・受付終了後、名簿の写しを責任者に配布しますので当日の出欠等にご利用ください。
  - ・受講希望者がいなかった場合又は受講希望者が定員を超えそうな場合には責任者にご相談させていただきます。
3. 必要物品について
  - ・以前、責任者より提出された内訳書により庶務課庶務係より会計課用度係へ発注依頼をいたします。（再度お手元の控えを確認され、納期に相当日数がかかりそうな物品についてはあらかじめ庶務課庶務係へご連絡ください。）
  - ・物品の仕様等詳細については会計課用度係より責任者に問い合わせます。
  - ・物品の受け渡しは、会計課用度係より責任者にご連絡いたします。
4. 補助学生の弁当について
  - ・講座（セミナー）計画書により予定された人数分の弁当を当日の 11 時 30 分に門衛所に配達されるように庶務課庶務係にて手配しますので、原則責任者において守衛より受領願います。
  - ・弁当のカラ箱は、印刷室前のゴミ箱に捨てるよう補助学生への指導方お願いします。（屋外のゴミ箱へは絶対に捨てないようにしてください。）
  - ・講座（セミナー）終了後、別途責任者宛に配布します「補助学生出席確認表」に補助学生本人の記名捺印をさせ同書類を庶務課庶務係にご提出ください。
5. 休日等勤務を要しない日に講座（セミナー）を実施する場合
  - ・責任者が取りまとめのうえ、「週休日の振替及び半日勤務時間の割振り変更簿」を事前に提出してください。
6. 講座（セミナー）当日について
  - ・当日は、各講座（セミナー）の教職員スタッフと補助学生により講座（セミナー）を開催してください。
    - ・正門掲示用の立て看板は庶務課庶務係で作成し用意しておきますので、当日の準備の際に掲示願います。その他の掲示物は各講座（セミナー）のスタッフにてご用意ください。

案内板が必要な方は事前に庶務課庶務係に申し出てください。

サイズ：高さ 101 cm・幅 33 cm

掲示面：縦 48 cm×横 28 cm（最大 A 3 縦の用紙が収まるサイズです。）

用意できる枚数：7 枚程度
7. 講座（セミナー）の記録等のお願い
  - 受講人数の記録：受付終了後にお渡しした名簿にチェックする等し、参加者名簿として庶務課庶務係へ提出願います。
  - 受講者アンケート：今年度より中期計画に基づき受講者からの満足度調査を中心にアンケートを実施することになりました。事前に責任者に受講者相当分の用紙をお渡ししますので、講座（セミナー）終了後回収のうえ庶務課庶務係に提出願います。
  - 記録写真：可能な限り、当日の様様をデジカメ等に記録されデータとしてご提供くだされば幸いです。デジカメを庶務課で 2 台保有しておりますのでどうぞご利用ください。
8. その他
  - 上記の他必要な事項については、庶務課庶務係と責任者においてご連絡・相談させていただきます。よろしくご協力お願いいたします。

（出典：平成 17 年度公開講座（オープンセミナー）実施要領）

資料B - 1 - - 4

## 平成 17 年度公開講座等実施計画書の作成例

平成 年 月 日作成

区 分	公開講座	オープンセミナー	駅前高専(レワ-ケミナ-)
講座の名称	パソコンで「ネームプレート」を作ろう!		
講座の概要	<p>絵や文字を機械を使って彫るには、複雑なプログラムを作らねばならないので、以前はとても難しいものでした。</p> <p>でも最近はコンピュータ等の進歩により、ワープロを打つのも同じくらい手軽に出来るようになりました。</p> <p>この講座では、パソコンで動く彫刻機を使って、プラスチックの板に文字や図形を彫って江オリジナルのプレートを作ります。</p> <p>ぜひ、カッコいい、素敵な物を作って、キーホルダーや自分の部屋のドアに貼ったりしてみましょう!</p>		
開催日時	7月10日(土)～ 月 日( ) (9時30分～16時00分)(6時間)		
場所	SCS講義室		
対象者及び募集人員	小学生高学年 10名		
受講費用	無料・実費500円(材料費)・機構で定める講習料(公開講座)		
特記事項	筆記用具, 昼食		
講座担当教職員	所 属	氏 名	
	工学科	木更津 太郎	
	工学科	祇園 花子	
学内における所要経費	備品・消耗品費	16,750円(【内訳書】添付のと)	
	補助学生経費	3,000円( 5名 1日)	
	外部講師謝金	0円( 名 時間)	
	計	19,750円	

(出典：庶務課資料)



資料 B - 1 - - 5

## 公開講座等実施計画書の作成依頼文

平成 18 年 3 月 6 日

公開講座  
オープンセミナー 担当者 各位  
テレワークセミナー

地域共同テクノセンター長  
小平 眞次

平成 18 年度公開講座等実施計画書の作成について（依頼）

このことについて、予算資料及び P R 資料作成のため下記書類を作成のうえ庶務課庶務係まで提出して下さるようよろしくお願いいたします。

なお、作成して頂いた調書を取りまとめのうえ地域共同テクノセンター運営委員会に議題提出いたしますので、期限厳守のうえ作成・提出くださるよう重ねてお願いいたします。

記

〔作成・提出していただく書類〕

- 1.（別紙 1 - 1）平成 18 年度公開講座等実施計画書【個別表】
- 2.（別紙 2）平成 18 年度公開講座等「備品・消耗品費」【内訳書】

〔提出先及び提出期限〕

庶務課庶務係 3 月 17 日（金）まで

不明な点やご質問等ございましたら、庶務係（大坪）までお訪ねください。

（出典：庶務課資料）

## 平成 17 年度木更津工業高等専門学校公開講座開催一覧

No.	講座の名称 (クリックすると内容が表示されま す。)	対象者	募 集 定 員	受 講 料	開催日	受付期間	申込用紙	内容等 の 最終更 新日
1	<a href="#">webカメラを用いた静止画配信技法 (高校生以上対象)【第1回】</a>	高校生以上	10 名	5,400 円	5月21日(土)	5月9～13 日	<a href="#">word形式</a> <a href="#">PDF形式</a>	講座終 了
2	<a href="#">住宅建築のための地盤の基礎知識 - 講義と簡易現場試験 -</a>	一般社会人	10 名	5,400 円	5月22日(日)	5月9～13 日	<a href="#">word形式</a> <a href="#">PDF形式</a>	講座終 了
3	<a href="#">中学3年生のためのタッチタイピ ング 4時間で完全マスター【第1回】</a>	中学3年生	5 名	2,700 円	7月23日(土)	7月4～8日	<a href="#">word形式</a> <a href="#">PDF形式</a>	講座終 了
4	<a href="#">中学3年生のためのタッチタイピ ング 4時間で完全マスター【第2回】</a>	中学3年生	5 名	2,700 円	7月24日(日)	7月4～8日	<a href="#">word形式</a> <a href="#">PDF形式</a>	講座終 了
5	<a href="#">PCの自作講座 ~ 入門編 ~</a>	中学3年生 以上	6 名	6,400 円	7/26(火)・27(水)	7月4～8日	<a href="#">word形式</a> <a href="#">PDF形式</a>	講座終 了
6	<a href="#">移動ロボット制作教室</a>	中学生	25 名	3,700 円	7/26(火)～ 28(木)	7月4～8日	<a href="#">word形式</a> <a href="#">PDF形式</a>	講座終 了
7	<a href="#">webカメラを用いた静止画配信技法 (中学生対象)</a>	中学生	10 名	2,700 円	8月3日(水)	7月11～15 日	<a href="#">word形式</a> <a href="#">PDF形式</a>	講座終 了
8	<a href="#">Pov-RayによるCG作成入門</a>	小学高学年 以上	20 名	6,400 円	8月6日(土)	7月11～15 日	<a href="#">word形式</a> <a href="#">PDF形式</a>	講座終 了
9	<a href="#">電気主任技術者第3種のための直 前講座 (回路,電磁,応用,機器)</a>	一般社会人	10 名	7,400 円	8/6(土)・7(日)	7月11～15 日	<a href="#">word形式</a> <a href="#">PDF形式</a>	講座終 了
10	<a href="#">土木技術者のためのExcel入門</a>	一般社会人	20 名	6,400 円	8/6(土)・7(日)	7月26日ま で	<a href="#">word形式</a> <a href="#">PDF形式</a>	講座終 了
11	<a href="#">Texの初歩の初歩</a>	中高教諭	20 名	6,400 円	8/27(土)・28(日)	7月25～29 日	<a href="#">word形式</a> <a href="#">PDF形式</a>	講座終 了
12	<a href="#">webカメラを用いた静止画配信技法 (高校生以上対象)【第2回】</a>	高校生以上	10 名	5,400 円	10月22日(土)	10月3～14 日	<a href="#">word形式</a> <a href="#">PDF形式</a>	講座終 了
13	<a href="#">シェイクスピアを楽しもう</a>	高校生以上	30 名	5,400 円	11月6日(日)	10月3～14 日	<a href="#">word形式</a> <a href="#">PDF形式</a>	講座終 了

( 出典 : <http://www.kisarazu.ac.jp/kokai/kokai/koza/pkokai.htm> ,  
地域共同テクノセンターウェブページ , イベント情報「公開講座」 )

### 公開講座等に関する広報活動の例

平成16年度公開講座広報「きさらづ」掲載予定 H16.5.11 現在

対象	講座名	開催期間 (予定)	掲載予定日 (原稿期限)	受付期間	募集 人員
小学生	木更津高専ウェルネス講座 「柔道ってどんなもの」	7月11日 10:00～11:30	6月1日(火) (5月1日)	6/7～11	20名
小学生高学 年以上	パソコンで「ネームプレートを作ろう」	7月17日 9:30～16:00	6月1日(火) (5月1日)	6/7～11	10名
中学生以上	背骨と健康	7月19日 13:00～16:00	6月1日(火) (5月1日)	6/7～11	35名
中学3年生 以上	パソコン製作入門編	7月26日～27日 10:00～16:00	7月1日(木) (6月1日)	7/5～9	6名
中学生以上	IT講習会	7月27日 10:00～16:00	7月1日(木) (6月1日)	7/5～9	30名
中学生	移動ロボット製作教室	7月27日～29日 10:00～15:00	7月1日(木) (6月1日)	7/5～9	35名
一般社会人	「振動関係公害防止管理者」試験準 備講座 -振動の性質と測定技術-	7月28日～29日 10:00～16:00	7月1日(木) (6月1日)	7/5～9	6名
中学生	木更津高専ウェルネス講座 「短距離走の技術・トレーニング教室」	7月31日 10:00～12:00	7月1日(木) (6月1日)	7/5～9	20名
中学生以上	英語スピーチの方法	8月4日 13:00～16:00	7月1日(木) (6月1日)	7/12～16	30名
高校生以上	Linux入門	8月7日 10:00～17:00	7月1日(木) (6月1日)	7/12～16	20名
一般社会人	「電気主任技術者第3種」のための直 前講座	8月7～8日 10:00～17:00	7月1日(木) (6月1日)	7/12～16	10名
一般社会人	「持続可能な社会」について考える	8月28日 9:30～12:00	8月1日(日) (7月1日)	8/2～6	20名
小学高学年 ～中1	木更津高専ウェルネス講座 「ジュニアバレーボール教室」	9/11・18・25,10/2 13:00～16:00	8月1日(日) (7月1日)	8/23～27	30名
65歳未満の 社会人	木更津高専ウェルネス講座 「スポーツテストで体力診断」	10月10日 10:00～15:00	9月1日(水) (7月30日)	9/6～10	40名
小学生高学 年以上	鋳造で「メダルを作ろう」	11月6日 9:30～16:00	10月1日(金) (9月1日)	10/4～8	10名
計 15講座					292名

平成16年度公開講座「房総ファミリア」掲載予定 H16.5.11 現在

対象	講座名	開催期間 (予定)	掲載予定日 (原稿期限)	受付期間	募集 人員
小学生	木更津高専ウェルネス講座 「柔道ってどんなもの」	7月11日 10:00～11:30	6月5or6日 (5月22日)	6/7～11	20名
小学生高学 年以上	パソコンで「ネームプレートを作ろう」	7月17日 9:30～16:00	6月5or6日 (5月22日)	6/7～11	10名
中学生以上	背骨と健康	7月19日 13:00～16:00	6月5or6日 (5月22日)	6/7～11	35名
中学3年生 以上	パソコン製作入門編	7月26日～27日 10:00～16:00	7月3or4日 (6月19日)	7/5～9	6名
中学生以上	IT講習会	7月27日 10:00～16:00	7月3or4日 (6月19日)	7/5～9	30名
中学生	移動ロボット製作教室	7月27日～29日 10:00～15:00	7月3or4日 (6月19日)	7/5～9	35名
一般社会人	「振動関係公害防止管理者」試験準 備講座 -振動の性質と測定技術-	7月28日～29日 10:00～16:00	7月3or4日 (6月19日)	7/5～9	6名
中学生	木更津高専ウェルネス講座 「短距離走の技術・トレーニング教室」	7月31日 10:00～12:00	7月3or4日 (6月19日)	7/5～9	20名
中学生以上	英語スピーチの方法	8月4日 13:00～16:00	7月10or11日 (6月26日)	7/12～16	30名
高校生以上	Linux入門	8月7日 10:00～17:00	7月10or11日 (6月26日)	7/12～16	20名
一般社会人	「電気主任技術者第3種」のための直 前講座	8月7～8日 10:00～17:00	7月10or11日 (6月26日)	7/12～16	10名
一般社会人	「持続可能な社会」について考える	8月28日 9:30～12:00	7/31or8/1 (7月17日)	8/2～6	20名
小学高学年 ～中1	木更津高専ウェルネス講座 「ジュニアバレーボール教室」	9/11・18・25,10/2 13:00～16:00	8月21or22日 (8月7日)	8/23～27	30名
65歳未満の 社会人	木更津高専ウェルネス講座 「スポーツテストで体力診断」	10月10日 10:00～15:00	9月4or5日 (8月21日)	9/6～10	40名
小学生高学 年以上	鋳造で「メダルを作ろう」	11月6日 9:30～16:00	10月2or3日 (9月18日)	10/4～8	10名
計 15講座					292名

(出典：庶務課資料)

公開講座実施内容の房総ファミリア新聞掲載例

10月8日(日)

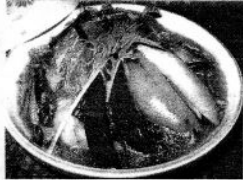


房総ファミリア新聞 (第1部)

週3回発行 85,000部 (無料配布) (4)

栄養! 温まる! ダイエット!  
(4人分355円)

きのこ野菜の春さめスープ



材料 (4人分)  
春さめ 100g  
もやし 150g  
にら 50g  
白菜 2枚

作り方

- ①にらは5cm程に切り、パプリカはくし切りに、キャベツ・白菜は食べやすい大きさにザク切りにする
- ②まいたけは食べやすい大きさに裂き、エリンギは縦に2~3mm程の厚さに切る
- ③フライパンにごま油を敷き、①のにら・パプリカ・キャベツ・白菜と②のまいたけ・エリンギを入れ、炒める
- ④鍋にがらスープを入れ、沸騰したら春さめを入れて湯がく
- ⑤③に④の春さめとスープをそのまま入れて煮、たかのつめを入れる
- ⑥味噌と砂糖、薄口しょう油で味を調えて出来上がり!

キャベツ 1枚  
パプリカ (赤・黄) 各1/4個  
エリンギ 2本  
まいたけ 50g  
たかのつめ 2本  
がらスープ 800cc  
味噌 大さじ3  
砂糖 大さじ1強  
ごま油 小さじ1  
薄口しょう油 大さじ2



POINT  
春さめはスープで煮て、そのまま野菜を炒めたフライパンに入れる。

### 臥薪嘗胆 幾星霜

日本の戦後のあゆみ 重城良造

▼第二九二回

(第九〇話 首相の靖国神社参拝は是か否か③)  
(首相の靖国参拝に対する賛否②)

「[中略]」中国の唐蒙使外相が靖国神社参拝について「やめなさいとゲンメイしました」と語ったように、日本人の心の問題が外国の圧力に屈して曲げられることは、大きな痛恨を残す。日中間において、

申込書に必要事項を記入の上、受講料を添えて直接、または現金書留で次まで  
○オーブンセミナー：受講申込書に必要事項を記入の上、フロックス・郵送・直接のいずれかで次まで  
▽申込先  
☎0438(30)4000  
0438(98)571  
〒292-0041  
木更津市清見台東2-11-1  
木更津工業高等専門学校 庶務課庶務係  
※ 郵送・現金書留の場合は事前に申込先まで電話で問い合わせてください  
▽申込期間 10月14日(金)まで  
9時~12時、13時~17時 (郵送・現金書留の場合は必着)  
☎0438(30)4164  
同校 技術教育支援センター  
除く 金井さん

### 講習会・教室②

木更津工業高等専門学校 公開講座「および」オーブンセミナー」を開催します。

公開講座	会場	日時	内容	対象	定員	受講料
Webカメラを用いた静止画配信技法(第2回)	同校 SCS教室	10月22日(日) 10時~15時	市販されているUSB接続のwebカメラとフリーソフトウエアを使い、静止画像を配信する技法を学ぶ	高校生以上	10名(先着順)	5400円
オーブンセミナー	同校 SCS教室	10月23日(日) 13時~16時	環境都市工学科CAD室	中学生以上のパソコン初心者	20名(先着順)	無料
Webカメラを用いた静止画配信技法(第2回)	同校 SCS教室	10月25日(日) 10時~15時	Webで年賀状作り	高校生以上	30名(先着順)	5400円

申込書に必要事項を記入の上、受講料を添えて直接、または現金書留で次まで  
○オーブンセミナー：受講申込書に必要事項を記入の上、フロックス・郵送・直接のいずれかで次まで  
▽申込先  
☎0438(30)4000  
0438(98)571  
〒292-0041  
木更津市清見台東2-11-1  
木更津工業高等専門学校 庶務課庶務係  
※ 郵送・現金書留の場合は事前に申込先まで電話で問い合わせてください  
▽申込期間 10月14日(金)まで  
9時~12時、13時~17時 (郵送・現金書留の場合は必着)  
☎0438(30)4164  
同校 技術教育支援センター  
除く 金井さん

(出典：2005年10月8日房総ファミリア新聞)

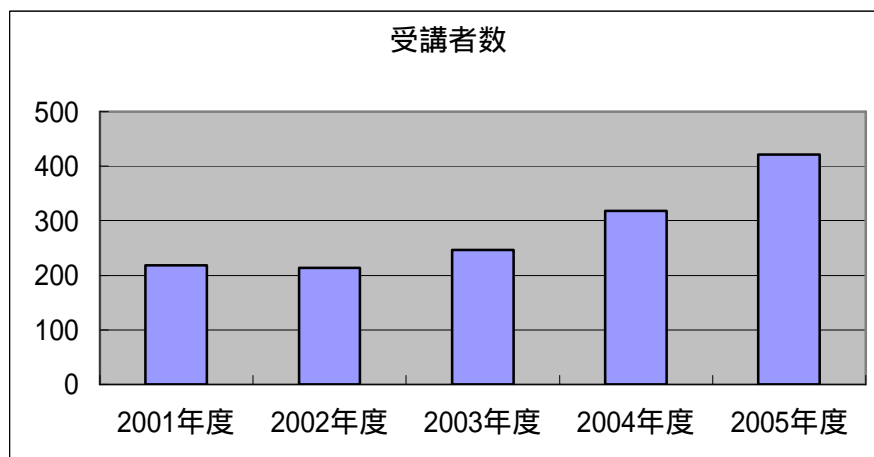
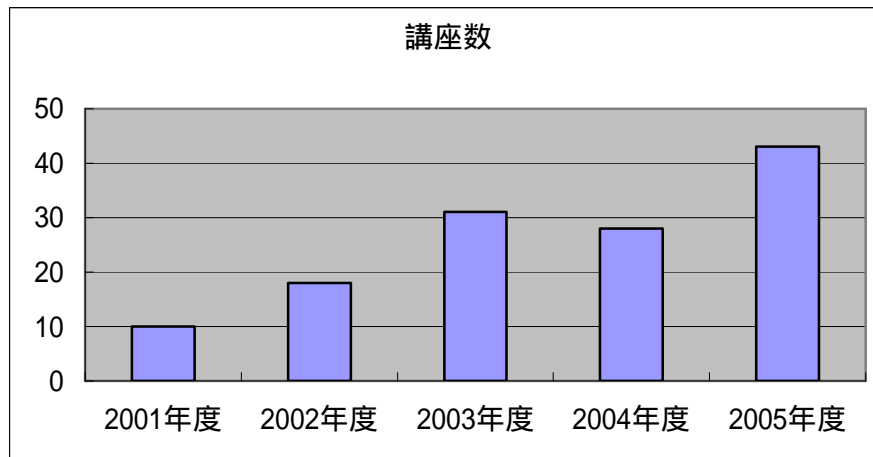
## 2005 年度公開講座等の実績

2005年度公開講座等の実績							
番号	種別	講座名	担当学科	対象	開催日	定員	受講者数
1	公開講座	Webカメラを用いた静止画配信技法(1)	電子制御	一般	5月21日	10	2
2	公開講座	住宅建築のための地盤の基礎知識	環境都市	一般	5月22日	10	0
3	公開講座	中学3年生の為のタッチタイピング(1)	環境都市	中学	7月23日	5	0
4	公開講座	中学3年生の為のタッチタイピング(2)	環境都市	中学	7月24日	5	3
5	公開講座	PCの自作講座 ~入門編~	電子制御	中学・一般	7月26日	6	4
6	公開講座	移動ロボット製作教室	電子制御	中学	7月26日	25	17
7	公開講座	Webカメラを用いた静止画配信技法(中学生対象)	電子制御	中学	8月3日	10	0
8	公開講座	Pov-RayによるCG作成入門	情報	小中	8月6日	20	1
9	公開講座	電気主任技術者第3種のための直前講座(回路,電磁,応用,機器)	電気電子	一般	8月6日	10	0
10	公開講座	土木技術者のためのExcel入門	環境都市	一般	8月6日	20	1
11	公開講座	Texの初歩の初歩	基礎	一般	8月27日	20	0
12	公開講座	Webカメラを用いた静止画配信技法(2)	電子制御	一般	10月22日	10	2
13	公開講座	シェイクスピアを楽しもう	人文	一般	11月6日	30	0
1	オープンセミナー	パソコンで遊ぼう~初心者のためのパソコン教室~	技術教育支援	中・一般	5月29日	20	30
2	オープンセミナー	ウェルネスセミナー 誰よりも早く走ろう(1)	人文	中	6月11日	20	14
3	オープンセミナー	ウェルネスセミナー 柔道ってどんなもの	人文	小	7月3日	20	13
4	オープンセミナー	パソコンによるプレート彫刻	機械・支援セン	中・一般	7月16日	10	6
5	オープンセミナー	牛乳パックで橋づくり(1)	環境都市	小	7月21日	5	4
6	オープンセミナー	牛乳パックで橋づくり(2)	環境都市	小	7月22日	5	4
7	オープンセミナー	IT講習会	ネットワーク情	小中一般	7月26日	30	14
8	オープンセミナー	英語リスニング講座	人文	中・一般	8月8日	25	10
9	オープンセミナー	背骨と健康(カイロプラクティックの立場から)	機械	中・一般	8月21日	30	25
10	オープンセミナー	実験で理解する鉄筋コンクリー	環境都市	中	8月23日	10	0
11	オープンセミナー	青少年のためのおもしろサイエンス(1)	基礎学系	小中	8月24日	40	46
12	オープンセミナー	サンドブラスアート	機械・実習工場	中・一般	8月24日	10	11
13	オープンセミナー	地震が起こったとき、あなたならどうする?	環境都市	中・一般	8月28日	100	9
14	オープンセミナー	エレキギターを作ろう!!	電気電子	小中	10月1日	10	7
15	オープンセミナー	ウェルネスセミナー ジュニアバレーボール教室	人文	小	9月10日	30	50
16	オープンセミナー	ウェルネスセミナー スポーツテストで体力診断	人文	一般	10月15日	40	16
17	オープンセミナー	パソコンで年賀状を作ろう~初心者のためのWordで年賀状作	技術教育支援	中・一般	10月23日	20	13
18	オープンセミナー	青少年のためのおもしろサイエンス(2)	基礎学系	小中	10月30日	40	42
19	オープンセミナー	鋳造でメダルを作ろう	機械・支援セン	中・一般	11月12日	10	6
20	オープンセミナー	ウェルネスセミナー 誰よりも早く走ろう(2)	人文	中	3月25日	20	7
1	テレワークセミナ	アジアの環境破壊を考える	環境都市	中・一般	10月16日	18	4
2	テレワークセミナ	カイロプラクティックについて	機械	中・一般	10月16日	18	4
3	テレワークセミナ	ため池や小川の生き物 ~貝に卵を産む魚~	環境都市	一般	11月5日	15	4
4	テレワークセミナ	レゴロボット(1)	電子制御	小中	11月6日	10	10
5	テレワークセミナ	パワーポイントでカレンダーを作ろう	情報	一般	11月13日	18	4
6	テレワークセミナ	レゴロボット(2)	電子制御	小中	11月19日	10	10
7	テレワークセミナ	身近なものから学ぶ ~電気~	電子制御	一般	11月20日	10	3
8	テレワークセミナ	かんたん年賀状づくり	情報	小中一般	11月26日	18	10
9	テレワークセミナ	かんたん!コンクリートづくり	環境都市	小	11月27日	10	9
10	テレワークセミナ	エクセルで簡単家計簿です!	情報	小中一般	11月27日	18	6

(出典:庶務課資料)

公開講座等の開設数・受講者数の推移

種別	数	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
公開講座	講座数	2	4	4	4	13
	募集定員	45	105	85	71	181
	受講者数	45	77	31	36	30
オープンセミナー	講座数	3	6	11	10	20
	募集定員	56	160	210	245	495
	受講者数	100	81	146	171	327
テレワーク セミナー	講座数	5	8	16	14	10
	募集定員	84	136	266	193	145
	受講者数	73	56	69	111	64
計	講座数	10	18	31	28	43
	募集定員	194	401	561	509	821
	受講者数	218	214	246	318	421



(出典：庶務課資料)



## 2005 年度に報告された出前授業の概要

## 5) 生涯学習事業

## (4) 支援講座

出前授業として、以下に示すように 8 件 (16 年度 10 件, 15 年度 6 件) の報があった。対象となった中学校は昨年度と同数であった。

「万華鏡の製作」光の性質の講義及び実験 (高橋邦, 小藤田, 鈴木)

7 月 8 日 木更津第一中学校において, 1 年生 111 名に対して「万華鏡の製作」を実施し, 光の性質の講義及び演じ実験を行った。

(木更津第一中学校による SPP 研究者招聘講座) - 高橋邦夫

「ホバークラフトの製作」(小田・板垣)

「一弦エレキギターの製作」(飯田・大澤・浅野・石川)

「コンクリートはなぜ固まるか」(青木), 3 テーマ同時の物作り講座

7 月 16 日 木更津第一中学校において, 1 年生 111 名に物作り講座を行った。

(木更津第一中学校による SPP 研究者招聘講座)

「君にもできる光通信体験講座」(栗本・米村)

「紙コップ簡易光通信」を 9 月 22 日と「光送受信機の製作と通信実験」を 9 月 29 日の 2 日に亘って木更津第一中学校の 3 年生 3 クラス 100 名に対して, 光通信を簡単に体験できるキットを用いて, 物作り講座を実施した。光通信のキットは木更津高専の開発したものである。

(木更津第一中学校による SPP 研究者招聘講座)

「ゲルマラジオの製作」(飯田・大澤・石川・石井・浅野・石川・立石・今村)

10 月 29 日 木更津太田中学校 1 年生 110 名に対して, ゲルマラジオの製作を行った。

(理数大好きプランによる研究者招聘講座)

「君にも作れる光通信」(栗本・大枝・鈴木聡)

10 月 31 日 太田中学校 3 年 4 クラス

(理数大好きプランによる研究者招聘講座)

「君にも作れる光通信」(栗本・大枝・鈴木聡)

11 月 7 日 木更津第二中学校 3 年 選択授業 1 クラス

(理数大好きプランによる研究者招聘講座)

「身近な先端科学技術に関する講演」(栗本・高橋克)

12 月 19 日 木更津太田中学校の全校生徒に対して, 身近な先端技術について, 最近の脳研究の紹介等を行った

木更津第三中学校の「地域ふれあい活動デー」における物作り講座 (吉井・大澤・田村)

11 月 13 日 木更津第三中学校のイベントで物作り講座を開き, 以下の内容を実施した。

「自分の香りを作ろう」いくつかの香りを合成して自分のコロンを作る

「万華鏡の製作」

(出典:平成 17 年度地域共同テクノセンター事業活動報告 P8-9)



### 青少年のためのおもしろサイエンス資料

青少年のためのおもしろサイエンス実施実績

開催場所：木更津工業高等専門学校

年月日	テーマ	参加人数 (申込数)	運営費
1997年11月2日	・紙飛行機の製作と滞空競技	50(58)	校費
1998年8月25日	・エンジンなしで船を動かそう ( 樽から樟脳を抽出し、その樟脳で船を動かす)	31(36)	財団法人 総合工学振興会
1998年11月1日	・マイナス200 の世界を体感しよう ・紙飛行機の製作と滞空競技	59(67)	財団法人 総合工学振興会
1999年8月23日	・レモンや炭でおもしろ電池 ( 果物などを使って電池を作る。炭電池による模型自動車の製作と競技)	30(35)	化学工学会
1999年10月31日	・紙飛行機の製作と滞空競技	43(50)	化学工学会
2000年8月25日	・レモンや炭でおもしろ電池 ( 果物などを使って電池を作る。炭電池による模型自動車の製作と競技)	40(48)	大学開放推進 経費(大学等開 放特別事業)
2000年10月29日	・おもちゃを作って科学しよう ( 紙飛行機、シャボン玉、蒸気船、 科学マジック)	65(70)	大学開放推進 経費(大学等開 放特別事業)
2001年8月23日	・レモンや炭でおもしろ電池 ( 果物などを使って電池を作る。炭電池による模型自動車の製作と競技)	31(37)	大学と地域特別 事業経費
2001年10月28日	・おもちゃを作って科学しよう ( 紙飛行機、シャボン玉、蒸気船、 科学マジック)	51(41)	大学と地域特別 事業経費
2002年8月23日	・レモンや炭でおもしろ電池 ( 果物などを使って電池を作る。炭電池による模型自動車の製作と競技)	13(15)	大学と地域特別 事業経費
2002年10月27日	・おもちゃを作って科学しよう ( 紙飛行機、シャボン玉、蒸気船、 銀細工、科学マジック)	87(81)	大学と地域特別 事業経費
2003年	校舎改修工事のため中止		
2004年3月20日	・光の不思議万華鏡作りに挑戦！ ・炭電池を作っておもちゃを動かそう！ ・水蒸気の力で船を動かそう！ ・銀細工でペンダントを作ろう！ ・低温の世界を体験しよう！	45(48)	校費
2004年10月31日	・光の不思議万華鏡作りに挑戦！ ・紙飛行機を作って飛ばそう！ ・銀細工でペンダントを作ろう！ ・低温の世界を体験しよう！	41(5)	校費
2005年8月24日	・使用済み天ぷら油から石鹼を作ろう！ ・光の不思議万華鏡作りに挑戦！ ・水蒸気の力で船を動かそう！ ・紙飛行機を作って飛ばそう！ ・低温の世界を体験しよう！ ・オーブオイルから石鹼を作ろう！	45(48)	校費
2005年10月30日	・光の不思議万華鏡作りに挑戦！ ・紙飛行機を作って飛ばそう！ ・低温の世界を体験しよう！	29(11)	校費

青少年のためのおもしろサイエンス(出前授業編)実施実績

年月日	開催場所	テーマ	参加人数 (申込数)
2000年2月29日	君津市立周西中学校	・放射線の科学 ・水の話 ・果物電池 ・科学マジック	全校生徒 (500名)
2001年12月1日	木更津市立第三中学校	・放射線の科学 ・地球環境問題 ・硫酸の合成 ・科学マジック	3年生 (100名)
2002年5月11日	木更津市立中央公民館 (子どもセンター)	・紙飛行機の製作、滞空競技 ・プリクラ写真 ・温度感知器 ・科学マジック	小学校3～6年生 (30名)
2003年7月8日	木更津市立第一中学校	・万華鏡の製作 ・光の世界	1年生 (100名)
2003年10月3日	袖ヶ浦市立昭和小学校	・レモンや炭でいる電池 ・低温の世界の体験	小学校5、6年生 (230名)
2003年11月8日	木更津市立第一中学校	・万華鏡の製作 ・蒸気船の製作、走行	中学校1～3年生 (51名)
2004年7月2日	木更津市立第一中学校	・万華鏡の製作 ・光の世界	1年生 (78名)
2004年11月13日	木更津市立第三中学校	・万華鏡の製作 ・石鹼作り	中学校1～3年生 (25名)
2004年12月12日	君津市立大和田小学校	・石鹼、線香花火作り ・ケミカルデモンストレーション (時計反応、火虫実験)	小学校 (18名)
2005年7月8日	木更津市立第一中学校	・万華鏡の製作 ・光の世界	1年生 (115名)
2005年11月12日	木更津市立第三中学校	・入浴剤、コロソ作り ・万華鏡の製作	中学校1～3年生 (30名)

( 出典：基礎学系理科教室おもしろサイエンス資料集，現地閲覧資料 30 )

## ものづくり夢フェスタ 2004 資料

# ものづくり夢フェスタ2004

— 高専からはじまる、ものづくり新世紀 —

日時 2004年8月1日(日) 10時～19時40分

場所 **かずさアカデミアホール** 会場案内図はこちら

主催 日本高専学会 URL <http://www.soc.nii.ac.jp/jact/>

共催 国立木更津工業高等専門学校 URL <http://www.kisarazu.ac.jp/top.html>

特別協賛 マブチモーター株式会社

協賛 双葉電子工業株式会社、東京電力、翼システム、サイバネットシステム、ソニーEMCS木更津テック、誠文堂新光社、千葉県教材社、アムテック

後援 木更津市、木更津・君津・袖ヶ浦・富津市教育委員会、木更津商工会議所、木更津工業高等専門学校技術振興交流会、木更津市異業種交流プラザ、電気学会千葉支所、日本機械学会千葉ブロック、朝日新聞千葉総局、読売新聞千葉支局、毎日新聞千葉支局、産経新聞千葉総局、東京新聞千葉支局、日刊工業新聞千葉支局、日本経済新聞千葉支局、千葉日報

### 1. 各種ものづくり体験・おもしろサイエンス

参加無料・事前登録抽選制 第1回:10時30分～12時 第2回:15時30分～17時

ブーメラン紙飛行機、ゲルマニウムラジオ、光情報通信、ウインドカー、クリップモーター、万華鏡、超伝導

参加登録は、希望テーマ名、氏名、学校名、学年、住所、電話番号、(あればファックス、E-mail)を記入の上、6月30日までに、下記FAXに送付ください。抽選の結果は当選者に個別連絡。

参加申し込み連絡先 FAX 0438-30-4050 またはFAX 0438-30-4062



ゲルマニウムラジオ



ものづくり夢フェスタ2004—高専からはじまる、ものづくり新世紀— 2004.8.1 かずさアカデミアホール

(出典：高等専門学校の教育と研究第9巻第4号，現地閲覧資料31)

2005 サイエンススクエア資料

**2005 夏休み サイエンススクエア**  
 トライ・はっけん・感動

国立科学博物館 東京・上野

※企画によっては材料費が500円程度かかるものがあります。  
 ※動物や植物の死体は1日1回に限り、1回につき1人に制限を設けておきます。  
 ※よく噛んでいただくのは本来の旨味を堪能し、消化しやすくなる効果があります。  
 ※高学年は、イベント終了時間より前に終了する場合がございます。  
 ※月曜日は展示替えのため、閉館となります。

目録

8/2-8/28	かほくたんけん教室 (B/ 2-8/7) 植物の観察 (B/ 9-8/21) プラスチックであそぼう (B/23-8/28) 光のひみつ	新館2F 探検コーナー	13:00~16:30	小学生以上
8/2-8/4	変形菌の観察と飛び出すカード作り アメーバのように動き、キノコのように変身するふしぎな生き物、変形菌。	新館2F	10:00~11:30 12:30~16:30	小学生以上
8/5-8/7	はっけん博士 おしぼり標本を使った名前さがしをしてみよう。	新館2F	10:00~12:30 13:30~16:00	小学生
8/5-8/7	昆虫をもっと良く知ろう 昆虫の様々な体にある不思議な構造により、昆虫の体の特徴を学びます。	新館2F	10:00~12:00 13:00~16:30	小学生以上
8/16-8/21	こんぼろ・あんなぼろ 木で米に漬くのか？ 炭石の？ ラブくり(木目出し)にトライ!	新館2F	10:00~12:30 13:30~16:00	どなたでも
8/23-8/24	二足歩行ロボットによるダンスショー 二足歩行ロボットの歩行の仕組みやラジコンなどの演習を体験します。	新館2F	10:00~12:00 13:00~16:00	小学生以上
8/25-8/26	体験してみよう足湯気分 身近な材料で簡単な湯を作り、粉のお風呂がお待ちしています。	新館2F	10:00~12:00 13:00~16:30	小学生以上
8/23-8/25	パードランドで楽しもうパートII 身近な材料で簡単な湯を作り、ワグイスの音を出してみよう。	新館2F	10:30~12:45 14:00~	小学3年生以上
8/26-8/28	いろいろな砂 日本のいろいろな場所の砂をさわったり、顕微鏡で観察しよう。	新館2F	10:30~12:30 13:30~16:30	小学生以上
8/9-8/14	とびだす顔カードを作ろう! 「Yahoo! きっぽ」 ティラノサウルスやオオカワウサの「とびだす顔カード」を作ってみよう!	新館2F	10:00~16:00	どなたでも
8/9-8/21	ミュージアム・アドベンチャー ワークシートを使って展示をくわしく見てみよう! !発見しよう!自然の不思議。	新館1F	10:00~11:30 12:30~16:00	中・高校生
8/16-8/21	地球の記憶を掘り起こせ!! スーパーシップ「ちきゅう」 この船で地球のなぞを解き、新生命体の発見、マンホールへ挑戦!	新館2F	10:00~12:00 13:00~16:00	どなたでも
8/5-8/7	モビールを作ろう メガラなどをを使ったモビールづくり。うまくなつくとおもしろいかな?	新館2F	10:00~12:30 13:30~16:00	小学生以上
8/5-8/7	牛乳パックでポストカードを作ろう 絵画の再発見。手作りのポストカードづくり。	新館2F	10:30~11:30 13:30~16:00	小学生以上
8/9-8/14	技術の達人によるものづくり教室 江戸すだれ、絹のペンギンなどを通して伝統工芸の世界を発見。	新館2F	10:00~12:00 13:30~16:30	どなたでも
8/9-8/14	木材を使った自由工作 木片でなにができるのか? 自分の好きなものをつくってみよう!	新館2F	10:00~12:00 13:30~16:30	小学生
8/16-8/21	フラッシュライトで走る車「千代もくくん」を作ろう! 金属フラッシュライトの構造を学ぶ。手のひらサイズのミニマシン作り。	新館2F	10:00~11:30 13:00~16:30	小学4年生以上
8/16-8/17	太陽電池をつくろう 太陽電池を作って、電子メロディーを鳴らそう。	新館2F	10:00~13:00	小学4年生以上
8/19-8/19	光通信にトライ! ビニールホースや発光ダイオードを使って、簡単な光通信を体験します。	新館2F	10:00~11:00 13:00~14:00	小学4年生以上
8/20-8/21	橋をつくってみよう 身近にある発泡スチロール、木材、竹ひご、発紙などで橋を作ってみよう。	新館2F	10:00~12:00 13:00~16:00	小学4年生以上
8/16-8/21	万華鏡を作ろう ビニールホースや発光ダイオードを使って、光の不思議を体験する万華鏡作り体験。	新館2F	10:00~	小学4年生以上
8/16-8/21	電気であらゆる電子のおもちゃ作り 日用品と簡単な電気部品で電子のおもちゃを作ります。	新館2F	12:30~14:30	小学4年生以上
8/16-8/21	クルクルトンボ ガリガリするとクルクルまわる! トンボづくり体験!	新館2F	10:00~12:00 13:00~16:00	小学生以上
8/23-8/24	スライムを作ろう 洗濯のりを使って、スライムを作ります。	新館2F	10:00~12:00 13:00~16:00	小学生以上
8/27-8/28	ふしぎな光通信 備光線を組み合わせると光通信を作ると、あるはずのない壁が見えてきます。	新館2F	10:00~12:00 13:00~16:00	小学生以上
8/23, 24, 27, 28	風に向かって進むウインドカーを作ろう 風(うちわや扇風機)に向かって進むウインドカーを作ります。	新館2F	10:00~12:00 13:00~16:00	小学生以上
8/23, 24, 27, 28	日用品でラジコンを作ろう「家ラジコ」 傘でラジコンを作ってみよう。電池がないのにラジコンが動くよ。	新館2F	11:00~14:00	小学4年生以上
8/25-8/26	夜光パック・ペンダントを作ろう プラスチックを加工して蛍光塗料をぬったオリジナルパック・ペンダントを作ろう。	新館2F	10:00~12:00 13:00~16:30	小学生以上
8/25-8/26	万華鏡・ビー玉鏡を作ろう プラスチック板とビー玉で万華鏡を作ってみよう。	新館2F	11:00~14:00	小学生以上
8/23-8/28	備光フィルムでステンドグラスを作ろう 光の不思議その2。備光紙でステンドグラスを作ってみよう。	新館2F	10:00~12:00	小学4年生以上
8/23	牛乳パックで橋作り 牛乳パック30個を使って橋を作ります。	新館2F	12:30~14:30	小学4年生以上
8/24-8/25	一弦エレクトリックギターを作ってみよう 一弦で簡単なエレクトリックギターを作ります。	新館2F	12:30~14:30	小学4年生以上
8/26-8/28	君にも作れる光通信 光通信の簡単なおもちゃを作って遊びます。	新館2F	12:30~14:30	小学4年生以上
8/23-8/25	「電子ホテル」をつくろう 発光ダイオードを利用したホテルのおもちゃを作ります。	新館2F	10:00~11:00 13:00~14:00 16:00	小学生以上
8/26-8/28	「ガタガタする石」を作ろう 「クルト石」「セルト石」などという名称で遊ぶおもちゃです。	新館2F	10:00~12:30 13:30~16:00	どなたでも

(出典：2005 夏休みサイエンススクエアパンフレット「国立科学博物館」)

## （分析結果とその根拠理由）

テクノセンター運営委員会において公開講座等の実施要領が定められ、実施者に実施計画書の作成・提出を求めており、それによって実施予定内容の確認、全体の計画立案が行われている。公開講座等の講座名及び詳しい実施内容はウェブページや地域機関紙、木更津市広報等を通して、広く公開されている。講座の内容は、本校の研究技術力を地域に還元すると同時に、地域のニーズに対応して多岐に及んでおり、講座数は年々増加し2005年度は43講座にも及んだ。また、地域の要請に応じて各種出前授業等にも積極的に講師を派遣している。

以上のことから正規課程の学生以外に対する教育サービスが、本校の目的に沿って計画的に実施されていることが分かる。

観点1 - : サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

## （観点到に係る状況）

公開講座等の講座数及び受講者数の推移は、資料B - 1 - - 11（公開講座等の開設数・受講者数の推移）に示した通り、年々増加傾向にあり、2005年度の実績では、421名の参加があった。

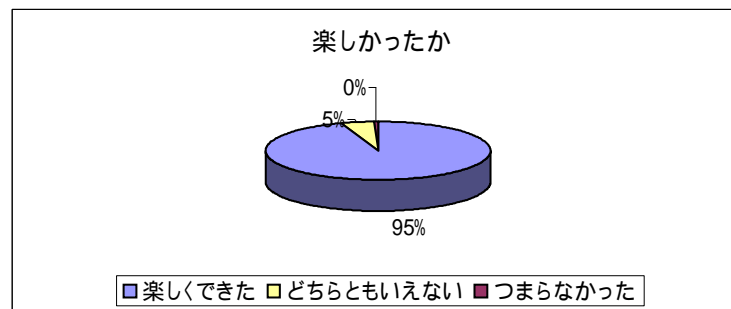
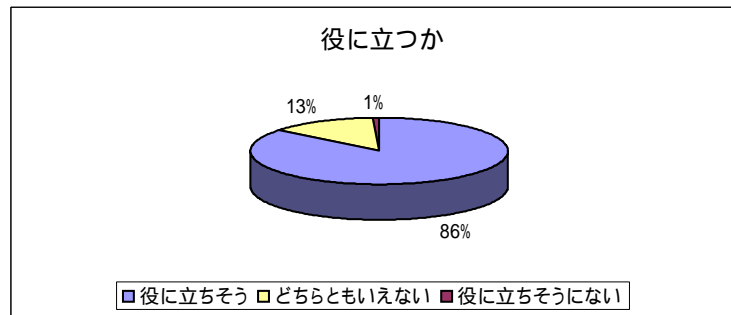
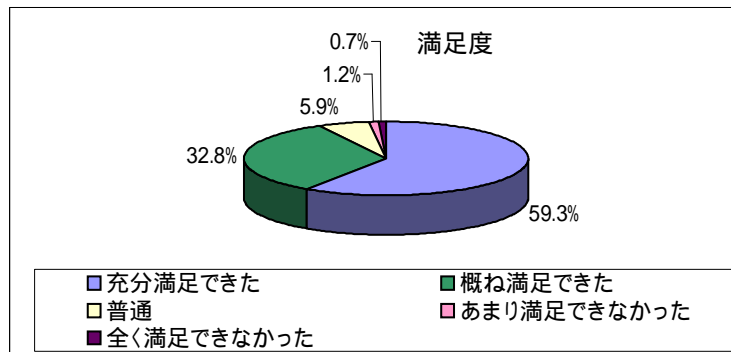
2005年度に行った公開講座、オープンセミナー、テレワークセミナーにおける受講者アンケート（アンケート内容：資料B - 1 - - 11 参照）の結果を示す（資料B - 1 - - 1）。受講者の満足度については、「充分満足できた」若しくは「概ね満足できた」という回答率は、小中学生対象講座では93.1%、社会人対象講座では90.7%と良好であった。また、小中学生対象講座で、講座が楽しかったという回答の割合は94.8%、社会人対象講座で講座の内容が今後役に立つと回答した割合は90.7%であり、受講者アンケートの結果から、本校の目的である「社会人の生涯教育のサポート、地域小中学生の学習意欲の向上」に対して十分な成果が上がったと考えられる。

活動成果を検証し、教育サービスの改善を図る目的で、公開講座担当者に対し、公開講座実施報告書の提出を義務付けている（資料B - 1 - - 2）。実施報告書の内容は、実施計画書からの変更点、前年度からの改善点、実施後に行った受講者アンケートに対するコメント及び反省点、次回開講時に向けての改善点となっており、提出先はテクノセンター運営委員会である。同委員会は、実施報告書の内容を検討し、委員会において講座内容の問題点抽出、改善の勧告を行うシステムはあるが（資料B - 1 - - 3）、現在のところは、講座実施者の自己点検において十分な改善が行われている。実際の改善例については、平成17年度公開講座実施報告書（現地閲覧資料32）にて示す。

また、出前授業等においても、実施後に反省会が行われ、改善につなげている（資料B - 1 - - 4）。

2005 年度公開講座等受講者アンケート結果

	公開講座	オープンセミナー	テレワークセミナー	小中学生	社会人	計(数)	小中学生 (%)	社会人 (%)	計(%)
充分満足できた	23	178	41	148	94	242	63.5%	54.3%	59.3%
概ね満足できた	7	112	15	69	63	134	29.6%	36.4%	32.8%
普通	0	22	2	15	9	24	6.4%	5.2%	5.9%
あまり満足できなかった	0	4	1	1	4	5	0.4%	2.3%	1.2%
全く満足できなかった	0	1	2	0	3	3	0.0%	1.7%	0.7%
役に立ちそう	25	273		171	127	298	82.6%	90.7%	85.9%
どちらともいえない	5	41		34	12	46	16.4%	8.6%	13.3%
役に立ちそうにない	0	3		2	1	3	1.0%	0.7%	0.9%
楽しくできた	28	298	60	221	165	386	94.8%	94.8%	94.6%
どちらともいえない	2	18	0	12	8	20	5.2%	4.6%	4.9%
つまらなかった	0	1	1	0	1	2	0.0%	0.6%	0.5%



(出典：庶務課資料)

## 公開講座実施報告書の例

## 平成 17 年度公開講座等実施報告書

平成 18 年 3 月 16 日作成

記載責任者	所属： 電子制御工学科	氏名： 鈴木 聡
-------	-------------	----------

区分	公開講座	オープンセミナー	駅前高専（フレックシ-
講座の名称	移動ロボット製作教室		
募集状況	募集定員： 25 名	応募者数： 18 名	受講者数： 17 名
実施計画書からの変更点	予定した募集定員より応募者が少なかったため、担当する教職員数を 6 名から 5 名に減らした。		
前回からの改善事項 (H16 年度以前に実施実績がある場合のみ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来は受験をにらんでか中学 3 年生の参加が多かったが、昨年度あたりから 1 年生の参加も多くなってきた。これに伴い、今年度は講義内容を噛み砕いて、1 年生にもわかるような工夫を凝らした。製作内容は変更していないが、1 年生には特に注意を払うようにスタッフにお願いした。</li> <li>・製作のとき、トランジスタの向きを間違える受講生が多かった。これは指導書の図がわかりにくいこと、トランジスタの極性の見分け方を周知していなかったことが原因であることが判明したので、今年度は改善した。</li> <li>・パソコンによるプログラミングは良く理解できないという声が多かったので、ロボットを制御するために最低限必要な事柄に絞り、具体例を挙げて詳しく説明するようにした。</li> <li>・ホームページを見て公開講座の開催を知ったという受講生が少なくなかったため、ホームページでの宣伝にも力を入れた。</li> </ul>		
受講生に対するアンケートの結果に対するコメントおよび本講座の反省点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度、理解度の点において、概ね好評であった。</li> <li>・「楽しく受講できましたか」、「説明はわかりやすかったですか」という設問に対して、「どちらでもない」という回答が数人いたが、自由記述欄には「先生方が親切で、是非高専に入学したい」と書いてあったので、公開講座を通して高専を知ってもらおうという点では有意義なものであったと考えている。</li> <li>・木更津市近郊からの受講者が 2/3 であり、残りは千葉市以北であった。かなり遠くから来る受講者もあり、熱心さに感心した。</li> <li>・二足歩行ロボットの製作講座を開いて欲しいという希望が多かった。</li> </ul>		
次回開講時に向けての改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募人員が定員に達しなかったため、ホームページ、地域ミニコミ誌などを通して宣伝を強化するとともに、中学校の先生方を通して公開講座の周知をはかる必要がある。</li> <li>・アンケートで要求があった二足歩行ロボットを公開講座で製作することは難しいが、昆虫形のロボットや中学生向けのロボットコンテストレベルのものを作らせることは可能であるので、次回以降考えていきたい。</li> <li>・本講座で作成する移動ロボットは、パソコンにより制御する。しかし、実際のロボットは自立型でマイクロコンピュータにより制御されるのが普通である。したがって、マイクロコンピュータに関する公開講座も必要と思われるので、これに関しては来年度のテーマに取り入れることにした。</li> </ul>		

(出典：地域共同テクノセンター運営委員会資料，現地閲覧資料 32)

## 公開講座等に関する会議議事要旨（抜粋）

平成 16 年度 第 6 回

## 地域共同テクノセンター運営委員会議事要旨

日 時 平成 17 年 1 月 11 日（火） 15:20～17:20  
 場 所 第 1 会議室  
 欠席者 田村，相川，鈴木久，石井，庶務課長  
 今回，公開講座関係（議題 1）のオブザーバーとして総務係長（永井氏）が出席。

## 【議 題】

## 1. 平成 17 年度公開講座について

実施照会について・・・資料 1-1

実施計画書について・・・資料 1-2

委員長より資料説明後，様々な議論がなされ，特に について，講習料収入と支出予算の関係を明らかにし，年度当初からある程度の既定経費を予算措置すべきとの意見があったが，議論の結果，原案どおり 実施照会后，各講座責任者に 実施計画書を提出させたいので，庶務係において予算資料（収入・支出見込）を作成後，本委員会において再検討することとなった。

〔総務係長補足〕

- ・できるだけ講習料収入の範囲でオープンセミナー及びテレワークセミナーを含む全ての講座が開講できることが望ましい。
- ・「独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則」第 14 条第 2 項の条文に謳われている講習料の減額については，校長の権限で定められるとされているが，減額の範囲等，総務係において後日機構本部へ照会する。（1 月 12 日確認）

## 第 5 回 地域共同テクノセンター運営委員会議事要旨

1. 日 時 平成 18 年 1 月 17 日（火） 15:20～17:15
2. 場 所 第 1 会議室
3. 出席者 小平（委員長）、大澤、鈴木聡、佐藤、高橋邦、東、高橋克、事務部長  
（欠席者：五十嵐、田村、板垣）

## 4. 議 事

## 【議 題】

## 4. 平成 18 年度公開講座等について（資料 4）

小平センター長から、公開講座については、平成 17 年度から実施方法を変更し開催している。18 年度の実施計画書の提出を各学科・学系に依頼する時期となったが、今年度の実施状況を見て、見直しを図ることの是非について提案があり、検討の結果、今年度と同様とすることが了承された。なお、今後は提出のあった計画書については本委員会でも内容を十分精査することとなった。

（出典：地域共同テクノセンター運営委員会議事要旨）

## サイエンススクエア反省会報告書

2005年9月6日

### サイエンススクエア反省会 報告書

(文責)大澤

1. 反省会実施日時：2005年9月6日 (火) 17:10~
2. 場所：第一会議室
3. 参加者：(基礎)高橋、吉井、(M)板垣、林田、(E)小平、石井、飯田、浅野、(D))鈴木、(J)栗本、大枝、(C)佐藤、(庶務課)原、斉藤、仲川、大坪、河野、宮近(学生課)椎名

アンケート結果紹介の後、意見を出し合った。以下に意見のまとめを記す。

- 4年生以下は親が全部作っているケースもあった。
- 低学年向けのテーマがあっても良いのではないかな
  - 長時間だと子供の集中力が続かないので、短い時間で終わるよう工夫が必要
  - 低学年と高学年に分けたらどうか
    - 兄弟での参加が多いので下の子供を断るわけにはいかない

整理券方式は人数に限られるので、随時実施のものが必要ではなかったか。

- フリーの企画で物作りは大変である
- 10~20分の演示があっても良い
- 10:00~12:00は班毎に指導をさせれば、随時実施も可能ではないか

朝だけの受付は何とかならないか。午後から来た人が参加できなくて残念そうだった。

- 受付の方式は科博で長年実施してきて定着したものでしょうから変更は難しいのでは？
- やはり随時実施するテーマが必要なのだろう

物作りの回数を増やしても良いのではないかな。

- 午前中2回、午後2回はやれるのではないかな
- 実際に2週目の終盤では1日4回実施したが、昼食をとる時間が無くなって学生が大変そうだった
  - 午後の開始時間を他高専のように13時からなら可能では？
- 学生は楽しんでたし、回数は増やした方が良いとの学生の意見もあった
- 時間が余りすぎたのではないかな
  - 今回の計画では1企画が90分を予定したため、4回を最初から計画するわけにはいかなかった。しかし、実施してみると早く終わった。時間の見積りは小学生への対応に慣れてくれば正確になると思う

理論の説明はほとんど聞いていないので、やらない方がよい。

大人が単独で実施したケースがあった。

- 年齢の上限をきちんと明記した方がよいのではないかな

作品を比べあうような工夫をすると盛り上がる。

作り方などの資料に学校の名前をもっと大きく入れたほうがよかった。

- 資料をネットで公開すると良い宣伝にもなる。

共通のスペース(高専全体の宣伝スペース)に進学相談があっても良かったのでは？

中学生限定のテーマがあっても良いかもしれない。

みどり館は地下なのでわかり難い。もっと大きな看板(企画内容が書いてある)があっても良かったのでは？

- 会場は確かにわかり難かった。
- 新館の1階にサイエンススクエア専用の案内所もあった。

準備段階では、立て替え払いができるようにしてくれると助かる。

- 試作段階で、100円ショップやホームセンターに行って自費で材料を購入するケースがあった。立て替え払いができないと不便である。

<学生からはメールで意見をもらった。以下は学生のメールから>

場所が遠いと思いました。

今回のやり方で大丈夫だと思います。でも、群馬高専の様に子供2人くらいに先生か学生が1人付いて進めていくのも子供たちのペースでできていいと思いました。アシスタントは五人くらいが適当だと思います。しかも五人が知り合いなら遠慮なんかせずに仕事が出来ると思います。女子学生が一人は居た方が小さい女の子には良いだろうと思いました。

<反省会に参加できなかった教職員から>

アンケートの設問が、小学生が答えるには、表現が少々難しいかなと感じました。内容はそのまま、表現をやわらかくした方がよいと思います。

工作の内容(偏光板、紙バックの橋作り)については、小学生向きで良かったと思います。

反省点(よかった点)として、アシスタント学生がとてもよく参加者(子供達)の面倒を見ており、助けられました。

アシスタント学生について

5年生・専攻科生は、公開講座等いろいろな場面で学外者の対応にあたった経験を基に小学生の視点にたつて非常に良く指導しており、小学生・保護者に好評だったように思えた。一方、低学年生の指導はいまひとつだったような声もあった。

小中学生対象のこういったイベントの成功・不成功は、アシスタント学生の対応ひとつにかかってくるため、来年度も開催するのであれば経験豊富な高学年生・専攻科生を中心に依頼できればよいと思う。

(出典：地域共同テクノセンター運営委員会資料)



(分析結果とその根拠理由)

公開講座等の開設講座数・受講者数は年々増加しており、2005年度は43講座の開設講座に421名の参加があった。受講者の満足度は90%を越えることから、十分に活動の成果が上がっていると考えられる。講座実施後に報告書の提出を義務付けてテクノセンター運営委員会で検討するシステムがあり、報告書の内容からも講座の内容、実施日、実施方法等について多くの改善が行われていることが分かり、改善のシステムが十分に機能しているといえる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

公開講座、オープンセミナー等の教育サービスが地域共同テクノセンターの事業として計画的に行われており、地域共同テクノセンター運営委員会によって各講座の実施内容が掌握されている点。

公開講座等の開講数が43講座あり、参加受講者数も421名に達している点。

ものづくり夢フェスタ2004(日本高専学会主催)、2005夏休サイエンススクエア(国立科学博物館)等のものづくり体験教室や文部科学省「科学技術・理科大好きプラン」サイエンス・パートナーシップ・プログラム研究者招聘講座に積極的に講師及びアシスタント学生を派遣し、地域小中学生に対して科学技術に対する興味・関心を与え理科の学習意欲向上に大きく貢献している点。

1997年より科学教室「青少年のためのおもしろサイエンス」を定期的で開催しており、参加者が現在に至るまで延べ1937名に達し、成果を挙げている点。

受講者の満足度が、社会人対象講座、小中学生対象講座ともに90%を超えている点。

(改善を要する点)

特に無い。

### (3) 選択的評価事項 B の自己評価の概要

本校では、一般社会人の生涯教育のサポート及び地域小中学生の学習意欲の向上を目的とした公開講座等の教育サービスを地域共同テクノセンター事業の一環として計画的に実施している。公開講座等には、有料の公開講座、無料のオープンセミナーの他に木更津市と協働で行っているテレワークセミナーが含まれる。公開講座等の実施担当者は、公開講座等実施要領に沿って実施計画を立て、実施後は受講者アンケートの分析を行う等して、サービスの改善に努めている。テクノセンター運営委員会では、実施計画書・実施報告書の内容を基に、実施内容の掌握を行っている。公開講座等の実施要領は、ウェブページや地域機関紙等の広報誌を通して積極的に幅広く公開され、開設講座数及び受講者数も年々増加しており、2005年度の実績では、開講講座数43、参加受講者数421名に達した。講座の内容は、一般社会人を対象としたものとしては専門技術や資格取得に関するものの他、パソコン入門、語学、体力作り等広範囲を網羅しており生涯学習のサポートとして適切なものとなっている。また、小中学生を対象としたものでは、パソコンの自作、橋作り、鋳造、レゴロボット等のものづくり体験講座のほか、パソコンリテラシー講座、科学実験教室、スポーツ教室、環境問題等多岐に及んでおり、小中学生の学習意欲の向上に寄与する内容となっている。受講者の満足度も社会人対象講座では90.7%、小中学生対象講座では93.1%とたいへん良好であった。

公開講座等の他にも、文部科学省「科学技術・理科大好きプラン」サイエンス・パートナーシップ・プログラム研究者招聘講座、地域小中学校の要請に応じた出前授業に積極的に講師を派遣している。また、「ものづくり夢フェスタ2004（日本高専学会主催）」、「2005夏休サイエンススクエア（国立科学博物館）」等のものづくり体験教室や1997年より定期的開催し延べ2000名近くが参加した「青少年のためのおもしろサイエンス」等の科学教室にも講師やアシスタント学生を積極的に派遣し、非常に多くの地域小中学生に対して科学技術に対する興味・関心を与え、理科の学習意欲向上に大きく貢献している。

以上のことから、正規課程の学生以外に対する教育サービスが、本校の目的に沿って適切に行われ、十分な成果を上げているものと評価できる。

### (4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が非常に優れている。